

城端地域 会議録

件名	城端地域提言実現検討組織による第17回会議		
日時	令和2年8月24日(月)19時～21時	場所	城端庁舎2階 202会議室
出席者	検討組織メンバー：11名、まちづくり推進係：2名		
内容	・具体的な市民参加の取組提案について(資料3) ・空いた庁舎を活用した実証実験の活動スペース「あそびば」について(資料4)		
概要	◆前回の振り返り(資料1、2) (●…メンバー発言、→…事務局発言) →前回は、4月9日の会議で藤井建築士から提示された図面の修正版として、皆さんからのご意見を踏まえて修正したものについてご確認いただいた。あくまで各機能の配置のイメージであるが、皆さんからのご意見をまとめると、このような感じの配置になるということだろう。 それから、城端まちづくり協議会の安居さんから、「みんなの交流館」として、提言に書かれている取組を盛り込んだ提案をしていただいた。様々な取組を行うには、ある程度の面積が必要ということから、既存庁舎建物の利活用を改めて検討すべきというご意見であったが、お菓子の組合として、飲食関係の取組に協力いただける、という心強い言葉もいただいたところ。 →また、今回、皆さんにお知らせがある。市内5地域にある各土地改良区で、統合に向けた検討を進めておられるが、統合後の事務所を城端に置きたいとの話が、先週、担当課である農政課を通じて連絡があった。現在、検討中の商工会、観光協会、社会福祉協議会と同じく、市役所の業務と関係性の強い組織であり、今後の検討に含めていくことにさせていただきたい。 ◆具体的な市民参加の取組提案について(資料3) (○…提案者発言、●…メンバー発言、→…事務局発言) →前々回の会議で、賑わい機能の取組や実証実験の提案について、それぞれご提案された方からその内容について説明していただいたが、まだ、説明いただいていない方がおられるので、ここで発表を伺うこととして良いか？ ●(全員)異議なし。 (坂本氏) まちなかコミュニティガーデン ―緑が息づく複合交流施設― まち中の人の動きが、この会議で検討している複合交流施設へ向かうように、例えば、草花、木、果樹、野菜、盆栽などの植物を使って演出していけるような、憩いの空間づくりが出来たらと思い、提案した。個人で育てられている植物を活用して、社会的な要素であるコミュニティへ結び付けられるのではないだろうか。高齢者から小さな子どもまで、植物を通じれば会話が生まれやすいのではないだろうか。そして、その会話の中心地がこの複合交流施設であれば良いのではないだろうか、と考えた。城端のまちの魅力や要素を意識しながら、この城端のまちをどんなまちにしたいのか、ということも同時進行で考えていけば、横のつながりの深いまちになっていくように思う。活動時期は、春夏秋冬、催事の有無に関わらず、いつでも。場所は、屋内屋外問わず。城端の皆さんは、玄関先でプランターに植物を植える等をして、日常的に植物を楽しんで生活しているらっしゃると思う。それを、複合交流施設という社会的な空間の中でも楽しむことが出来るように、デザインであったり、イベントであったり、と様々な仕掛けを行いたい。例えば、市民参加型のガーデンで、子どもから高齢者までが自由にふれ合うことで、生き生きとした日常生活が送れるようにしたい。また、複合交流施設に入らう図書館機能と連携した取組の実施や、地域の既存資源を有効活用し、緑で人をつなぐ。まち中の桜や植栽で緑地空間をつなぐ。城端のシンボルである、桜ヶ池や縄ヶ池、袴腰山の緑地空間を楽しむなど。大きな軸、小さな軸で構成していけたら、と考えている。 建物のデザインの話になるが、建物の中からでも、冬の雪などその季節の景色や季節の移り変わりなど、自然や植物の変化を楽しめるような、ギャラリー空間があると良いのではないだろうか。人が作るギャラリー空間ではあるが、自然に助けてもらうようなギャラリー空間というのが複合交流施設の中にあると良いと思う。また、屋内と屋外を緑で一体的にすることで、訪れた人が癒される施設にもなると良いと思う。 ●新たなアイデアが満載。どんなことから始めれば良いのだろうか？ ○例えば、じょうはな座前の駐車場の低木植栽は元気がないように見えるので、まずは、そこをコミュニティガーデンとして、みんなで関わりながら改良していくのはどうだろうか。育てる植物は、草花でも樹木でも良いと思う。 ●「誰かがしてくれるだろう」では植物は育たない。みんなで植物を育てる、という気持		

ちが大事。

- まち中のオープンスペースや公的な空間を、「みんなの庭」として活用することも一考かと。意識的に、人の動線を緑でつなげることをイメージしていけば良いと思う。
- 既存の池川散歩道グループもこの提案に加えてほしい。
- まずは、今、まち中にある植物に関する取組をつなげるところから始めれば良いと思う。

◆メンバーの石村氏から、ラフ図に係る提案の説明

(●…メンバー発言、○…石村氏発言、→…事務局発言)

- 昨年11月5日の会議で、メンバーの石村氏から図書館機能を中心とした複合交流施設のラフ図の提案があった。私は、その提案内容を非常に押したいと考えており、ここで改めて、石村氏からその内容を説明していただきたいと思うが、皆さんどうか。
- (全員)異議なし。
- まちづくり検討会議からの提言書を作成する段階で、図書館を中心とした複合交流施設の新設が良いとの意見が多かったことを踏まえて、自分なりに考えて、「マイテマ(仮)」という図書館を中心とした複合交流施設を提案させてもらった。

■コンセプトは、人と人をつなぐ図書館

「マイテマ(仮)」は、図書館を中心とした複合交流施設であり、図書館をベースに置くことにより、世代を超えた「行く目的」を創出する施設。そして図書館に併設された文化センター機能、福祉施設機能等を有効活用し、「目的」に「ついで」を付加させることにより、施設への滞在時間を増加させる事を目的とする。滞在時間が増えれば自然と人との交流が増え、人との交流が増えればそれ自体が「目的」に変わる。交流自体が「目的」となれば、マルシェのような「市」が立ったり、様々なイベントの企画・実行が行われたり、更には、図書館でありながら、交流人口の増加を促進することも可能と考える。「マイテマ」とは城端近辺の方言で「私もアナタの輪に混ぜて下さい。」と言う意味。それこそ、この施設を中心に、様々な人の輪が出来、「まいてま!」の声が溢れることを期待している。

■エリア構成について

あくまでも図書館、文化センター、福祉施設等の機能を統合した施設であり、機能の性質上、公共施設であるべきと考える。ただし、交流も目的としているので、市民のみならず、広く市外からの観光客等との交流も行っていく、言わば、「人と人を繋ぐ図書館」。従来の図書館機能を保持しながら、エリアを分けた効果的な利用が考えられる。にぎわいながら本も読める「ＹＹ(ワイワイ)エリア」、静かに本が読める「ＣＣ(シーシー)エリア」、レンタルスペース(会議室、調理室等)、レンタルオフィス、大体この4つのエリアで構成する。中でも、「ＹＹエリア」には靴を脱いで上がるスペースを設け、更なる滞在時間の増加を促す。また、「ＹＹエリア」とレンタルオフィスとを隣接させ、壁のないオープンな空間とすることで、敢えて騒然とさせることにより、事務所としての賑わい創出が可能となるだろう。加えて、「ＹＹエリア」とレンタルスペースの調理室を隣接し、カフェ等のチャレンジショップへの利活用も可能とすることで、また異なる賑わいの創出が可能となる。施設内のほとんどの壁面、間仕切りに本棚を設置し、建物全体が図書館であって、その中に多様な機能が混在するというような、図書館を中心とした複合型の施設のイメージである。

■コンシェルジュ機能について

建設場所は、城端地域の中心である旧城端庁舎跡にすることで、「城端地域の賑わいの拠点」となる施設とすることを狙っている。「マイテマ(仮)」は、城端地域における情報の集積所であり、発信源ともなる施設であり、その核となるのが「コンシェルジュ」と呼ばれる「人」の存在である。図書館の司書とは違い、「コンシェルジュ」は「マイテマ(仮)」内のイベントや城端地域のイベント、施設への案内等、「マイテマ(仮)」内の様々なサービスを統括する人である。「マイテマ(仮)」に「コンシェルジュ機能(人)」を付加させることで、従来の図書館とは一線を画した、本当の意味での「人と人を繋ぐ図書館」となり得ると考える。「マイテマ(仮) コンシェルジュ」は、それらのことを担う者ということになる。

■協議事項

改築であるべきか、新築にするべきか。改築は、確かに使えるスペースも多く、新築に比べて初期投資も少ないように感じる。しかし、スペースが多いということは無駄も多いということ。また、既存の庁舎利用では、耐用年数を迎えるまでの期間が短く、耐震工事はされているものの、コンクリートの基準は現在のものとは雲泥の差で、現在の基準では全然足りていないと聞く。無駄なスペースが多い分、ランニングコストも無駄

にかかる。市の財政は厳しく、この先、新築するとなった時に、果たして実現出来るのかどうか分からない。まちづくり検討会議では、それらの様々な観点から検討した結果、「新築で必要最低限なコンパクトな物」であることが望ましいとの結論に至った。

また、城端のまちの中には子ども達を遊ばせる公園が少ないとの意見を多く聞く。例えば、建物の外周りに芝生を植えて公園を作ってはどうか？建物の屋上を一部公園に出来ないか？建物の周りに「足ツボロード」を作り、プチアスレチックを作ってはどうか？建物の外に「足湯」を作ってはどうか？などのアイデアはあるが、どのようにして盛り込んでいけば良いだろうか。

長期視点での運営について、「マイテマ（仮）」は公共施設とするものの、市の財政状況を鑑みると、利益を生み出す施設へと成長させる必要がある。しかし、城端地域は観光客が多い地域ではなく、施設の収入の大半は、レンタルオフィスやレンタルスペースの利用料を想定している。そこから、新規ビジネスに繋がっていくことが出来れば、利益を生み出す施設へと成長させることも可能となるだろう。そのためには、城端地域や市全体、人と人を繋げるコミュニティなど、地域全体で定期的に会合を持つなどして、城端地域を皆で育てる姿勢が必要となるかもしれない。そんな地域の中核として、この「マイテマ（仮）」を活用していく必要もあると思われる。

また、コンシェルジュ（人）の育成について、「マイテマ（仮）」の情報集積の核を担う役割であることから、城端を知り、城端に詳しい人を発掘・育成していく必要がある。城端を好きで、城端をよく勉強し、人と話すことが好きな人。そんな人を大切に育てていく必要がある。城端地域内で横のつながりを持ち、お互いに協力していく必要がある。

「マイテマ（仮）」は、人と人を繋ぐ交流施設がコンセプトであることから、様々な人が様々な目的を持って、「マイテマ（仮）」に訪れる。子育て支援、サロン、駆け込み寺、〇〇教室、マルシェ（市場）、占いなど。常設出来る物は間仕切り等で仕切るなどして、小さいスペースをレンタル出来るような工夫もしていけば良いと思う。屋外でも同様である。キッチンカー等に使えるような外部電源、電気自動車用コンセントとかもあれば良いだろう。外国人ヒッチハイカー向け待合所（ヒッチハイクステーション）とかも良いかもしれない。子ども達が競って本を読む仕掛け、読書通帳（読んだ本の値段が通帳に貯まる仕組み）も導入出来れば、多くの子ども達の利用を促すことが出来るだろう。建物の外観は、出来れば落ち着いた感じが良い。城端の雰囲気として、じょうはな座との調和もあるかもしれないが、敢えてシンプルにすればどうか。仮に、じょうはな座のように格式の高い外観だと入りづらいし建築費もかかるので、和にこだわる必要はないかもしれない。何もない真っさらな外壁にして、子ども達や学生等が絵を描くのも良いかもしれない。

- 石村氏の提案を聞いて、非常にイメージが沸いた。昨今の社会情勢により、住民との意見交換会に向けたスケジュールを決めた後、会議が中断していた訳だが、ここにきて、前回の会議でも安居氏から新たな提案が出されて、どんな方向で進めていけば良いのか判断しかねる。
 - 私は、石村氏の提案に、安居氏の提案を合わせたようなものが良いのではないかと考えている。これまで、この会議に参加していなかった人もプレーヤーとして参加しようとする動きが出ていることの現れである。
 - そろそろ、事務局の方とは別に、この会議のかじ取り役が必要なのではないか？このことを次回の議題にしてはどうだろう。
 - 以前に、住民との意見交換会に向けたスケジュールを決めているが、そのような日程調整を、私たちメンバーでしなければならないのか？
- 以前から何度も説明しているが、提言していただいたことが、それで決定、ということではない。提言の実現に向けて、どのように進めていけば良いのかを、現在検討しているところである。その中で、肝心の「地域住民が集って活発に活動する、賑わいの創出」という部分がどうしても曖昧で、具体的な取組内容が見えないので、その点がこの会議の一番の課題となっている。その点がしっかり固まれば、各地域づくり協議会を回って説明したり、城端地域全体の住民との意見交換会を開催して周知を図ったりしていく、というところを目指している。3月の段階で、7月の庁舎統合までに住民との意見交換会の開催を進めていこうと計画していたが、昨今の社会情勢で会議が中断している間に、実証実験で具体的な市民参加の取組検討を進めていこうという動きが出てきて、その辺についてしっかりと検討を進めなければならないということと、それから、これは特に城端地区からであるが、庁舎建物を取壊して新築することに対する反発意見が非常に多く聞こえてきている。建物を壊して新しい物を建てるかどうかという点がメインではなくて、この場所でどんなことをすれば城端地域の皆さんのために一番良いのか、という点をメインに考えていかないと、各地域づくり協議会を回って説明した

時に、建物の話だけになったり、賛成か反対かの議論になったりして、説明会が前に進まないことは明らかであり、これまでの議論の内容を踏まえると、今後、市としての方針を出していかなければならないのではないかと考えている。賑わいの部分については、どのくらいの広さで、どんな設備が必要なのかを皆さんからご意見をいただきながら決めていく。市の方針とその辺の意見が固まり次第、各地域づくり協議会への説明や住民との意見交換会に進みたいと思っているが、地域づくり協議会によっては、まだ活動を控えておられるところもあるだろうから、その辺りを確認しながら、日程調整して進めていきたいと考えている。

先ほど、坂本氏からの取組提案については、建物だけではなくて、周りの植物や土に触れることをとおして、図書館で調べたり、ワークショップをしたりと、検討している施設を利用した人々の活動についての提案だったように思う。また、石村氏からは、以前から提案していただいていた、図書館を中心として、その中に様々な機能を入れ込んで、人と人とがつながるような複合交流施設として、更に分かりやすい内容になっていた。建物の機能の配置も、賑わいづくりと併せて考えていく必要があると感じたところである。「こんな建物を作るから、そこで何か活動をしてはどうか。」というやり方では、これまでの施設整備と全く変わらなくなってしまう。そうならないためには、「この活動をするために必要だから、建物を整備する」というやり方でないと整備する意味がない。専門的な人を入れて実際に活動をやってみることも必要かもしれない。今こうして実証実験が始まるので、そこをベースにしながら進めていけば見えてくるものもあるのではないかと期待している。

- まちづくり検討会議からの提言と、これまでの提言の実現に向けた会議での検討を比較して、不足している機能は何だろうか？

→ 安居氏からは、飲食関係の活動について、城端の菓子組合として協力していきたいとの意向を以前に伺ったので、実証実験については、庁舎建物を活用することに拘らずに、例えば、城端勤労青少年ホームの調理室を利用することも可能なのではないだろうか。

- 例えば、調理教室の機能については、城端小学校の特別棟にある調理室を利用するというように、既存の施設の機能を利用して、出来る限り、検討している施設をコンパクトにした方が良い、という結論に至っていたように思うが、どうか。機能や規模の都合で、既存施設を利用出来ないというのであれば、検討している施設の中に盛り込めば良い、とも言っていたかと思う。

- 建物に盛り込みたい機能一つひとつの内容が整理されていないことが問題である。どんなものかイメージするために、実際にやってみることも大事だと思う。また、これまでの会議の中で、社会福祉協議会城端支所とか、商工会城端事務所とかに、施設への入居について声掛けも出来ていない状況にも関わらず、入ってもらうこと前提で勝手なイメージで施設を作ろうとしているのはいかがなものか、という声も聞こえていることから、機能一つひとつの内容を整理していくことが必要である。その他、後になって「聞いてなかった」という声を聞くのもよくある話なので、ある程度の時期が来たら住民の皆さんに周知していくことも必要だと思う。

- 前回の会議で説明させていただいた庁舎建物を活用した提案について、先日、城端の菓子組合でも提案して、意見をもらった。庁舎建物を活用しての取組であるならばやりたい、取組の実施については全面的に協力したい、という意向を組合員それぞれから確認出来ている。広い面積が必要になるだろうから、現在の庁舎建物を活用することが前提である。

- この会議の検討内容を、城端地域の皆さんに周知するためにも、各地区での説明は必要だろう。

→ 各地区での説明を行いながら、出た意見を基にこの会議での検討を進めていくことが必要になるかもしれない。

- 果たして、この場所で行うことが、城端地域の皆さんにとって良いことなのか、あるいは、他に別の場所があるのではないか、ということも考えていかなければならないような気がしてきた。

- 既に商売されている方に、迷惑を掛けずに、どのように巻き込んでいくかも、考えていかなければならないだろう。そうでないと賑わいにはつながらないだろう。城端図書館も、城端勤労青少年ホームも、城端老人福祉センター美山荘も、どの施設の機能もなくすることは出来ないから、その機能を全部盛り込むとすると庁舎建物を活用していくしかない。

- 新築ではなく、庁舎建物を活用するという、その理由を聞かせてほしい。

- それは、面積が足りないから。1つの機能を共用するという発想はなかったもので、まずは、福祉の機能を中心に考えをまとめてみた。祭りやじょうはな座のイベントの時だけ、観光の機能をオープンすれば良いと思っている。

- そんなに広大な面積は必要ないかと思うが。
- やるのであれば中途半端な内容ではなく、立派な設備を入れた方が良いのではないかと
思っている。
- それは、菓子組合の総意なのか？
- この提案は、あくまでもたたき台程度なので、菓子組合の総意とまでには至っていない。
- 新聞記事を見ると、福野地域の会議では「民間資金を活用する官民連携の手法での整備
を目指し、」とあるが、お金を出し合うということなのか？
- 福野地域は、地元民間事業者の方々の集まりから「自分たちで取組むべき」という声が
挙がっている。
- 井波地域も、民間事業者が主体となるようなことが新聞に書かれてあった。
- それはそれで良いと思うが、城端地域は、そういうのとは、少し違う運営になるように
思う。
- 城端は、図書館を中心とした公共施設と言っているもので、そう言った意味からは、どち
らかと言うと、可能性は低いかもしれない。いろいろとご意見をいただいているが、市
として、この建物は構造上、長持ちするのかどうかを確認する必要があると考えている。
これまで、しっかりとした比較はしてこなかったように思っている。
- 庁舎建物を取壊して、コンパクトな新しい建物を建てる、と提言しているのだから、比
較する必要はない。
- 以前の会議では、ランニングコストの計算をして比較していたように思うが。比較した
からこそ、新しい施設の整備を、という提言になったのではないか。
- その辺を、しっかりと確認していきたいと考えている。
- 提言で謳っているのだから、そのとおりにすれば良いだけのこと。
- 以前から何度も説明しているが、提言していただいていることが、それで決定というこ
とではない。
- 提言が決定ではないかもしれないが、新築すること前提で、ずっと検討を進めてきてい
るし、視察もしてきている。
- それも理解している。社会福祉協議会や商工会の入居についても確認していく必要があ
るが、城端の場合は、あくまでも公共施設としての内容なので、皆さんからいただい
ている提言と、これまでの会議で伺っているいろいろなご意見とを踏まえて、どのような
施設にしていくのかを市として判断していくことが必要だと考えている。城端地区から
「この庁舎建物を使えば良い」との声が非常に多く聞こえてくることも踏まえながら、
判断していかなければならないと思っている。
- 建物のことは、城端地区の意見で決まることになるのか？
- このような状況の中で、各地域づくり協議会を回って説明したところで、賛成を得られ
るとは思えない。そういう中で、「この庁舎がどのくらい持つのか？」とのご意見に対
して、持つのか持たないのかは、本当に調べてみないと返事も出来ない。また、この会
議は、新築することが目的ではない。整備する建物を活用して地域住民が集って活発に
活動するにはどんなことが出来るのかを考えてもらっているはず。
- この会議の現状では、城端地区を始め、各地域づくり協議会で説明するには、説得力の
ある資料が少な過ぎるので、その資料を集めるために、実証実験を行ったり、この庁舎
建物がどのくらいもつのかを、今後調査してもらったりしていく、ということではない
だろうか。
- とにかく、この庁舎建物がどのくらいもつのかを調査してもらってはどうか。
- きちんと調べて、皆さんにお示ししたい。単なる想像で、持つとか持たないとかの話を
されても、説得力がない。
- 私は、もう一度最初から、安居氏からの提案も入れた上で、新築するのか改修するのか、
この会議での考えをまとめていけば良いと思うが。
- 何度も言うが、検討している建物は公共施設ということで検討しておられるので、新築
するのか改修するのかの最終的な判断は市が行う、ということになると思っている。た
だし、「改修だから、私たちの思ったような建物にはならない」という考えにはならな
いはずである。
- ◆空いた庁舎を活用した実証実験活動スペース「あそびば」について（資料４）
（●…メンバー発言、→…事務局発言）
- 現在のこの会議での検討状況を城端地域の皆さんにお知らせする意味も併せて、空いた
庁舎を活用した実証実験の取組についてのチラシを川田氏に作っていただいたので、説
明をお願いしたい。
- ７月の庁舎統合により、寂しくなったこの庁舎を活用して、新しいつながりや新しい活
動の場を作る、という実証実験を始めた。今、始めるのは３つの取組。１つ目は、清部

氏が提案した「HAB-YA（はぶのや）」。提言にもある情報発信の取組であり、その実現に向けて、運営の仕組みを確立させていくために実験を行うもの。2つ目は、私が提案した「シェア本棚」。検討している施設に入る図書館は、現在のような図書館ではなく、市民の皆さんが積極的に関わっていくような形式が良いだろうと考えている。城端図書館は現在も市職員が不在ということもあり、この実験をとおして、市民の皆さんが図書館に積極的に関わっていくような仕組みを作りたいと思っている。3つ目の「ボランティア基地」では、市の厳しい財政状況等を踏まえて、ベルマーク収集をしようとしている。誰でも自宅で手軽に取組むことが出来るし、城端の子どもたちのための取組であれば賛同してくれる方も多いと思うので、この場所で、関心が低い内容でも新しいつながりを、ということで参画していただけたら良いと思って提案したもの。「シェア本棚」については、今設置してあるものの他に3名の方から設置を申し出ている。このような感じで、少しずつ興味・関心のある人のつながりが広がっていると感じている。このチラシは、8月25日に配布される広報9月号と一緒に、城端地域の各世帯に配布されることになっているので、このチラシを見て、興味・関心のある人たちが増えれば良いと思う。また、そのような人たちに、この会議についても発信していき、城端をどんな地域にしたいのか、この場所をどんな場所にしたいのか、ということをお自分事として考えてもらえたら良いと思っている。私は、検討している施設が、新築になるだろうが、現庁舎を改修することになるだろうが、城端地域の未来を作るのは「人」だと思うので、今から動いていきたいと思う。皆さんのご協力もお願いしたい。

●実証実験と言っても、試行錯誤しながら取組を進めていくことになる。

●実証実験活動スペース「あそびば」のフェイスブックのページやツイッターのアカウントを作成したところ、カフェをやりたいとか、インターネットラジオ局をやりたいとか、たこ焼き焼こうか、などのアイデアが少しずつ集まってきている。実証実験を始めとして、今後の活動につなげていけたらと思っている。どんなアイデアが実現出来るか分からないが、いろいろな人を巻き込みたいと思っている。

●先ほど、ここで話し合ったことが決定事項でないという話であったが、ここでの議論も最終的には市が判断するのであれば、この会議は何をしているのだろうか？

→市が判断するのは、建物のこと。

●建物を新築するのか、庁舎建物を改修するのか、という方向性だけでも、示してもらえなかったら、いくら話し合っても、新築か改修かの議論になってしまって、賑わい機能についての話し合いが出来ないように思う。

●今後、各地域づくり協議会を説明しに回るとしても、何のために回るのか、目的が不明瞭だろう。

●この会議は、まちづくり検討会議からの提言の実現に向けた検討組織の会議であり、提言では建物の新築を謳っているのだから、新築で話を進めるべきだろう。

●先ほど、事務局から、建物を新築するのか、庁舎建物を改修するのか、という方向性を示すための資料を提示したいとの話であった。

→まずは、この庁舎建物がどのくらい持つのか調査した上で、ランニングコストも踏まえて、市としての方向性を示していきたいと思っている。

●提案だが、この組織にはかじ取り役がいまままで進めてきたけれど、それではなかなか進まないの、どなたかにかじ取り役をやっていただきたいと思う。そろそろ、住民との意見交換会を踏まえての準備が必要だと思うが、皆さんのご意見を伺いたい。

●かじ取り役は必要。

●私は、最近この会議に参加したばかりだが、先日、へりくだった態度で提案したつもりでいたが、新参者の意見は認められないと言われたことが非常に残念でなかった。曲がりなりにも私もこの会議に参加しているのだから、私の提案も加えていただいた上で、検討していただきたいと思う。

●かじ取り役については、次回の議題にしてはどうか。

●それは、組織図を作る、ということにも結び付くのか？

●あくまでも、この会議のリーダーについて検討することだろう。

●市としての方向性を示すための資料は、私たちにも見せてもらえるのか？

→市としての方向性を検討した資料は、皆さんにもお示しするつもりであるが、すぐに準備出来る訳ではないので、資料の準備が出来た時点で、次回会議の開催案内をさせていただく、ということでどうか。それまでの間、皆さんには、実証実験が活発に行われるような活動を行っていただきたい。

●これまでに、メンバーからいろいろな取組提案が出ているのだから、それらを、賑わいづくりの取組として施設機能に盛り込むだけではだめなのか？

→実証実験については、提案いただいている取組が実際に運用出来るようにしていくための活動と考えている。引き続き、並行して活動していただきたい。

	◆次回会議 日時、場所…未定 内容…市としての建物整備の方向性の確認、この会議のかじ取り役（総責任者・キーパーソン）についての検討 宿題…引続き、具体的な市民参加の取組について検討（事業化のための実証実験提案書を提出）
--	---

城端地域提言実現検討組織 第17回 会議 R2. 8. 24 (月)

◆前回の振り返り◆

- ・市内の各土地改良区の統合（事務所も含む）の話あり。5地区
- ・統合後の事務所を城端に置きたいとのこと。
- 市役所の業務と関係性の強い組織であり、今後の検討に含めていきたい。
- ・複合交流施設の建物をどんな内容にするのか決めてから、賑わいづくりを検討してはどうだろうか？
- ・この会議の現状では、各地区で説明するには説得力のある資料が少なすぎる。その資料を集めるためにも、賑わいづくりの検討も必要だと思う。

◆取組提案について◆

坂本さん “まちなかコミュニティガーデン”



・人の動きが、検討している施設へ向うように、植物を使って演出していけるような空間づくり。

Ex. 草花、木、果樹、野菜 etc...
盆栽



未来の
じょうしな

- ・高齢者から小さな子どもまで、植物を通じて会話が生まれやすい。会話の発生源は、複合交流施設！
- ・この城端のまちをどんなまちにしたいのか、ということも同時進行で考えていけば、横のつながりの深いまちになっていくように思う。

(非常) (日常)

・ハレの日, ケの日

・屋内, 屋外

・日常的に植物を楽しんで生活
していらっしゃる。



・社会的な空間の中にも
植物を楽しむことが出来るように

複合交流
施設

・日常生活の活力となるように。
いきいき

・図書館機能との連携

・既存資源を有効活用

・まち中の緑地空間をつなぐ。

・緑で人をつなぐ

Ex

・桜でまち中をつなぐ

・地元ならではの植栽をつなぐ

・桜が池, 縄ヶ池, 袴腰山

Q. どこから始めれば

A. 低木植栽 (庁舎前) の改良かな?

・みなで植物を愛する気持ちが大事。

A. 公的な空間を「みんなの庭」として
活用するのも一考かと。

・「池川散歩道グループ」も提案に
加えてほしいな〜。

A. 意識的に、^{この}動線が緑でつながる
ことをイメージしている。

・将来的に、城端のまち中が緑でいっぱい
になれば良いだろうが、今ある植物の取組
をつなげれば良いと思う。

・スケジュール感をもって検討をすすめては
どうか?

MAITEMA (仮)

わたしもあなたの
輪にまわってください

人と人をつなぐ図書館

公共の

田の中に、他の機能を加えて複合交流施設

コンシェルジュが重要

8/24 城端 ①②

- ・城端地域と育てる中核施設となるよう。
- ・コンシェルジュの育成
- (Ex) 子育て支援、アルシェ、……
- 子ども向け読書通帳……
- ・外観は落ちついた雰囲気です……

- ・菓子組合で提案して意見をもらったが、広い面積が必要とのこと。庁舎建物を活用することが前提とのこと。
- ・この会議の検討内容を城端の皆さんに周知するためにも、各地区での説明は必要。

・この会議のかじ取り役が必要では？

↳ 次回の議題にしてはどうか？

→ 賑わい機能が明確になってくれば、住民との意見交換会への調整を進めることができるだろう。

「必要だから作る」という意識を検討してほしい。

- ・提言書と、これまでの会議での検討に不足している機能は何だろう？

◆空いた庁舎を活用した実証実験 活動スペース「あそびば」について◆

- ・建物が新築になろうが、現庁舎を改修になろうが、この活動を通して、1人でも多くの住民の方が、城端の未来を「自分事」として考えてもらうきっかけにしたい。

◆次回会議◆

- ・市からの資料がまとまった段階でご案内します。
- ・「あそびば」OPEN 9/23 です！

城端地域 会議録

件名	城端地域提言実現検討組織による第15回会議		
日時	令和2年7月17日(金) 19時～21時	場所	城端庁舎2階 202会議室
出席者	検討組織メンバー：10名、まちづくり推進係：2名		
内容	・空いた庁舎を活用した実証実験の実施に向けた打合せ		
概要	◆空いた庁舎を活用した実証実験の提案について (○…提案者発言、●…メンバー発言、→…事務局発言) →実証実験に向けた取組提案について、皆さんから提出いただいている。まずは、その内容について発表していただきたいが、良いか？ ●(全員)異議なし。 (川田氏) <u>ブックマンション</u> この名称を付けてはみたものの、他所に似ているようで少し違う同名の取組が既にあるそうなので、違う名称にした方がいいかなと思っている。私の提案は、読み終えた本を共有・シェアし、「(仮称) 誰誰の本棚」というコーナーを設け、そこに置かれた本を手にとって読んでもらう、というもの。活動場所に常に人が張り付くとか、金銭の授受とかは困難であると考えているので、基本的には無人での取組としたい。この社会情勢が落ち着いたら、マルシェなど販売イベントで、一部の本の販売も出来れば、と思っている。ちなみに、私は古物商許可を持っているので、ゆくゆくはそういう場も作りたい。それらの本で読み聞かせも可能。あの人はどんな本を読んでいるのだろう？私の持っているこの本をみんなにも読んでほしいな、と思っている人、そんな人がたくさんいらっしゃることを信じて、この取組をやってみたい。 ●他所の取組とはどこが違うのか？ ○1つは、その場で本を販売している点。もう1つは、1箱、例えば1,000円で、みかん箱程度の大きさの箱を販売し、その箱に自分の本を入れてきて、設置するもので、本を設置している一人ひとりが本のオーナーであるという点。仮に、本が売れなくて損することになっても、それはそのオーナーの責任、というスタンス。私の提案の場合は、場所代をもらわずに、「本をお預かりする」というもの。眠っている本をいかにして表に出すか。眠っていて、もったいない、という本をお持ちの方は、ぜひ参加していただきたい。 ●市内図書館の廃棄予定の本を集めて、有効活用出来ればよいのではないか。図書館で実施している古本市との共同開催の可能性もあるのでは？ →図書館の取組の中で、こちらで代行出来るようなものに取組ませてもらえるようになれば良いと思う。また、今回、検討している複合交流施設には図書館機能を入れると提言で謳っているの、機能として中に入る図書館との違いを出しながら、区別出来るような取組になると良いと思う。 (川田氏) <u>ボランティアのたまりば</u> ベルマークや使用済切手などの、集めればお金の代わりになる資源を収集・整理して、取扱先に提出する、という誰でも手軽に参加できるボランティア活動である。作業の流れとしては、例えばベルマークであれば、ベルマークの周りを切り取り、それを専用台紙に貼付し、小学校へ届ける、というイメージ。ベルマークの小学校への提供については、小学校の先生、小学校PTA共に先日承諾をいただいていた。特にベルマークは、小学生のいない家庭では収集されず、ゴミと同様に処分されているので、非常にもったいない。 (長谷川氏) <u>町ピアノの設置</u> 現在の庁舎3階にあるグランドピアノが使われずに置いたままになっているのがもったいないと感じて提案したもの。ストリートピアノ風な使い方で、短期間でも使用出来たらよいと思う。フラッと寄って、子どもの頃に習ったような懐かしい曲を弾く人がいたり、片方で、その演奏に耳を傾ける人がいたり、拍手が起こったり。このように、人と人をつなぐ役割はあると思う。50代～60代の中には過去にピアノを習っていた人が多くいたはずなので、そのような方の利用は見込めるのではないだろうか。なお、管理費用の面からも、乱暴な扱いは避けたいと思っている。また、実証実験として提案してはみたものの、ピアノの音が、建物内の他の利用者の妨げになってはならないだろうから、その点も十分考慮しての実験となるだろう。 ●人が多く集まる場所だと提案のような効果はあるだろうが、そもそもピアノを聞く人がいるのか？人寄せは期待出来るのか？ ●例えば、2階で演奏して、それを、ネット配信を活用するなどして、1階に流せると良いのかも。		

- ネット配信するくらいなら、ここで取組む必要はないのでは？

この城端の地で、この取組に、人と人がつながるような仕掛けでもあるのであればやれないことはないかもしれないが、単にピアノが弾きたい人を集めるだけでは、せっかくのピアノが置いたままになって使われないのではないかとイメージした。

- 検討している複合交流施設には、防音機能のある会議室は元々欲しいと思っていた。この提案のように、今あるピアノを有効活用することは大事。

- ピアノの調律代は高額と聞くと、いくらぐらいなのだろうか？

- 他所の文化ホールでは、所有している高価なピアノで演奏してもらうという企画があり、料金を徴収し、予約制で2時間程度利用してもらっているそう。結構利用があると聞いた。

→ 料金徴収の仕組みがあれば、そこで調律代を賄うことは可能かもしれない。そのようなことも併せて検討していく必要はあるだろう。

（山崎氏）週末カフェ＋集える場

将来的に、図書館利用者、市民センターへの来庁者、社会福祉協議会や商工会へのご用の方、サークル活動での来場者、観光客など、様々な方の利用を視野に入れて、そのような方々がフラッと立ち寄れるような施設にするためには、飲み物が飲めるような施設にするべきと思っているので、実証実験の段階から簡単に準備出来る飲み物を提供してはどうかと提案した。日曜日の午前中のみで、月1～2回程度の開催からスタートすれば、お世話の負担も少なく済むのではないだろうか。簡単な飲み物と言ったが、紙コップにスティックコーヒーという内容ではお金をいただけないので、近隣のセルフのコーヒーメーカーを設置して提供している店舗では、1杯150円程度で提供されているようなので、同じような内容であれば、美味しいコーヒーが提供できて、お金もいただけるのではないかと考えている。この方式であれば人が張り付く必要もない。何もなければ、人が集まることで賑わいとするならば、この程度の飲料提供はあってもよいのかなと思っている。

（山崎氏）エコステーション

これまでは、地元婦人会が自らの活動として、年2回、資源回収を行っていたが、その婦人会が消滅したため、その代わりに実施するもの。資源回収は、地元にはなくてはならない活動である。平日の日中であれば、チリ紙交換車が回っているが、日中は、私自身も勤務のためになかなか出せなくて困っているので、潜在的に、平日の日中に勤務している方などは困っているのではないかと考えている。しかし、ニーズ調査をしていないので、実情は分からない。活動の流れとしては、建物の軒下などの屋根のあるスペースで、1～2時間の間に住民の皆さんから資源ごみを持ち込んでもらう。それを回収業者に引き渡す、という具合である。市の資源回収奨励金の交付を受ければ、わずかでも収入が得られる。例えば、日曜日の午前であれば取組めるのではないだろうか。年に1～2回の実施から始めていけたらと考えている。

- 私の地元の婦人会も存続していないが、地域の地域づくり協議会が引き継ぎ、その1つの部会が中心になって、春と秋の年2回実施している。この取組も、地域の地域づくり協議会で取組まれてはいかがだろうか？

- 私の地域の地域づくり協議会でも資源回収を行っていて、24時間365日持ち込めるようになっているが、毎日の持ち込み量はそんなに多くない。市としては、各地域づくり協議会で資源リサイクルに取組んでほしい、との意向だった。但し、年2回実施のために、一定のスペースを占有するのはいかがなものか。

- ごみの分別ほど煩雑なものはないと日々感じているところ。せっかくなら、地域の地域づくり協議会で取組むと良いのかもしれない。

（安居氏）城端に古くからあるお菓子の文化を活用した生きがいがづくり

福祉に重きを置いた取組と観光客対象の取組の併用型で考えた。城端は、呉西地域では高岡よりも菓子業が多く、一番多い時で15店舗あったが、現在は5店舗までに減少している。菓子業のみならず他の業種も減少しており、このような変化の中で、城端の賑わいづくりについてどこまでの内容を求めるのか、悩ましいところである。まずは、お菓子を通した福祉型の取組として、お菓子作り教室、子ども食堂や地域食堂の実施、認知症カフェの実施を考えた。作ったお菓子は、販売してもよいだろう。今の話を城端の菓子組合メンバーに伝えたところ前向きな反応もあったので、正式に検討してもよいかと思っている。福祉型、あるいは福祉と観光との併用型による、ものづくり、お菓子づくり、食事づくりを通した取組とし、営業許可が取得出来るくらいの本格的な設備を取り入れると、いろいろな面で都合がよいだろうと考えている。

- 資料には「城端まちづくり協議会で実施」と記載してあるが、実施に向けた検討はされているのか？

○ 今はたたき台の段階なので、協議会にはまだ話していない状況。地元の意見として、必

要との声があれば、具体的に検討していきたいと思っている。

- 今検討している施設が出来れば取組むことにしても良いのではないかなと思うが、空いた庁舎を活用した実証実験の段階では、どのように取組むことになるのか？
- 仮に機械を持ち込んだとして、どんな取組につなげられるか？高齢者サロンや子ども食堂などになるか？提供のみになるのか、提供と販売で可能なのか、その辺りも今後検討しなければならない。
- 提案にあった認知症カフェは、城端福祉センター美山荘でも取組まれていたことか？
- 認知症カフェは、「ともいきカフェ」の名称で、城端では、美山荘ではなく、山瀬氏のなやカフェで開催されていた。
- 今検討している施設には社会福祉協議会城端支所が入ることも検討されているので、実現すれば、認知症カフェも実施しやすいかもしれない。実証実験の段階ではどの程度のことが出るのだろうか？
- 実証実験となると、設備がないから難しいだろう。
- お茶会のようなイベントでなら、実施可能かもしれない。
- 出来る範囲にはなと思うが、必要な手続き的なことは当方で支援するので、出来ることからやっていただきたい。
- 民生委員をしていた時に、城端庁舎3階大ホールで温かいうどんを提供するという活動をしたことがある。その時と同じような取組が出来ればよいと考えている。

◆複合交流施設における「具体的な市民参加の取組」提案について

(○…提案者発言、●…メンバー発言、→…事務局発言)

(長谷川氏) ①エコステーション開設、②体験と学習・フリーマーケット 地域づくり協議会で年2回程度実施する資源回収とは別に、検討している施設内で出る資源ごみを分別・処理するというシステムを構築してはどうか？そこへたまたま、住民の方などが少量の資源ごみ等を持ち込むのはやぶさかではないかと。毎日の積み重ねが出来ればよいと思う。それに併せて、リサイクル教室やエコ教室も開催しながら、ごみ分別や資源の循環を啓発すると良いと思う。SDGsの観点からも資源の循環は大事なことです。

→割と気軽に取組めるテーマでもあるので、ぜひ実証実験でも取組んでいただきたい。

(山崎氏) エコマルシェ 図書館を核とした複合交流施設が、入り易く、魅力ある楽しい場所となるような仕掛けとして、簡単な直売所のイメージで提案した。福祉作業所で作られた品物を販売したり、障がいのある方に商品陳列、販売などのお手伝いしてもらったりして、それが社会参加につながると良いと思う。また、観光協会にも入居していただき、まち中のガイド役として観光案内や物産販売などをしていただく、というものの。

→実証実験でも取組めそうだが、いかがか？

○出来そうだろうか？いや、出来ないと思う。

→どんな場所だったら出来るのか？

○場所ではなくて、売る物である。

→売る物は、場所とは関係なく調達など出来るかなと思うが？

○いや、実証実験では難しくないだろうか？

→難しいとはどういうことか？エコマルシェがどんなものかよく分からずに聞いているのだが。

○メンバーの皆さんはどのように思われるか？

●そもそも、どんな物を売ろうと思っているのか？

●軽トラックでの販売などは可能だと思う。

○軽トラックでの野菜の販売も1つ。それは、今検討している施設のイメージ図にも描いてある。

●野菜の販売は、品切れにならないように品物を調達することが、自分が思っている以上に難しいということに、先日気が付いた。呼びかけた以上は、満足してもらうために、品物を切らさないようにしなければならない。せっかく来ていただいたのに品切れでは、お客様をがっかりさせてしまう。余程、力を入れて取り組まなければならない分野だろう。

○今のご意見のようなこともあるので、実証実験では出来ないと思った。出来ないことではないかもしれないが、気軽には出来ないと思っている。

●広報について、例えば、実証実験を実施するにあたり、広く住民の皆さんに告知するには、どうしたらよいだろう？また、告知は誰がするのか？一度告知した後はどうするのか？

→この話は、実証実験に限らず、新たな複合施設を整備した後でも同じことが言える。

- 新たな施設になれば、その辺りの仕組みはもっと明確になってくるだろうが、実証実験の段階で、効果的な告知方法を検討出来ると良いのだが。
- それは、効果的な告知方法を実証実験する、ということになるだろうか。
- 住民の皆さんに十分な告知もせずに「やった、やった」と言っている、十分な効果とも言えないので、難しいと感じているところ。
- (清部氏) じょうはな情報ハブのや 城端に特化した情報発信をしたいと思い、提案した。実証実験も想定している。まずは、ダンボールを利用したカタログスタンドを作製して城端市民センターに寄せられているたくさんのチラシを整理するところから始めたいと思う。特に、目立たせたい情報はボードに掲示してインパクトのある見せ方をしたい。イベントガイドや交流センターの活動のPRなどのほか、可能であれば、店舗の宣伝なども掲示して、城端の情報が一堂に会するように出来れば良いと考えている。掲示された情報を写真に写して、インターネットに掲載することも考えている。防犯を兼ねてカメラでライブ配信することも考えている。ここに来れば、城端の情報が分かるようなイメージである。
- いわゆる、伝言板のイメージだろうか。
- 情報が集約出来るような仕組みを作りたいと思っている。各種団体の情報も掲示されることを活かして、同種であれ異種であれ、団体相互の連携につながっていけばよいとも思っている。
- ここに来ないと情報が分からない、というのは将来的な理想の話であって、それだけではダメなのではないか？
- 仰るとおりで、メンバーの皆さんのアイデアもいただきながら、取組んでいきたい。
- ここに来ないと情報が得られない、というのは城端の皆さんに対して平等ではないのでは？
- インターネットだけでは片手落ちで、リアルというか、具体的な情報が欲しい場合は、ここに来ないと分からない。皆さんに公平に情報を行き渡らせることは、非常に難しいことだと思っている。
- (長谷川氏) 届けよう・見直そう、外国籍の隣人も暮らしやすい地域づくり 城端にも外国籍の方がたくさん住んでいらっしゃるの、その方たちが住んでいるところの情報を正しく理解出来るようになってもらうためのサークル活動の提案である。実証実験の段階から取り組まなくても、新しい施設が整備されてからの取組で十分だと思っている。例えば、地域づくり協議会の広報誌が配布されても、それはどこまで理解されているのか。また、伝えられている情報が、外国籍の方にも理解しやすいような平易な日本語で表現されているのか、あるいは、漢字にふりがなが振ってあるのか。読み方だけでも教えてあげればよいのか、など。そんな方たちとつながるための教室、あるいは、サークルを開催したい。福光では「にほんご広場なんと」という名称で、月1回の頻度で開催されている。城端でも、年3～4回程度でも良いので開催出来ないだろうか。「にほんご広場なんと」に参加している日本人スタッフが4人程度いらっしゃるの、そのような方々や、市友好交流協会も巻き込んで取組んでいけたら、と考えている。南砺市に住んでいる「誰もが」住みやすいと思えるような取組にしたい。特に外国語を話す必要はなく、外国籍の方が平易な日本語を話せるようになる交流の場が必要だと思っている。「あったらいいな」ではない。ちなみに、持ち寄りパーティーというイベントがあり、ミカン1個からの持ち寄りも可能とされている。
- 既に活動されている「にほんご広場なんと」の参加者はどのくらいなのか、開催頻度はどのくらいなのか、ご存じの範囲で聞かせてほしい。
- 月1回の開催。ベトナム、カンボジアの方が多い。それなりに日本語は上手に話されるが、日本語を使う場がない、とのことである。日本人スタッフの方が、平易な日本語で伝えることの勉強になっているほどである。以前、地元の地域づくり協議会の部会で「にほんご広場なんと」の活動について話を伺った。その中で、例えば、避難所で、外国人の方に「水を運んで」というような平易な日本語であれば伝わるし、若いから非常に強力な人材になる、との話であった。正にそのとおりで、その地域に住む日本人、外国人がお互いに顔見知りになることが非常に重要だと思っている。
- 既に福光で活動されている「にほんご広場なんと」の城端支所的な取組になるだろうか。福光からのスタッフ派遣の可能性の確認は必要だが、会議室の利用が可能であれば実証実験のうちから始めていただければ良いのではないだろうか。
- ちなみに、去年実施された防災訓練の折に、「にほんご広場なんと」に参加されている皆さんも訓練に参加されていた。
- (川田氏) 地域に伝わる料理を学び伝える週末カフェ 「自分が出来る事」の中で、新し

い施設が整備されたら取組みたいと思い、提案した。もし、新しい施設の調理室スペースが、営業許可がもらえるほどの設えになるのであれば、この辺りでよく食べられているゆべしやかぶら寿しなどの伝統料理をみんなで作って食べるような週末カフェのイメージで取組めるのではないかと考えた。現在、メンバーの清部氏が行っている「お寺 de フリマ」のイベントの折に、城端別院の釜を借りておかゆを炊き、それを提供しているグループに私も所属しているが、おかゆを炊くだけでなく、そのメンバーで味噌づくりも行っているの、味噌玉づくりなど、子どもも交えながら出来るのではと思っている。ちなみに、メンバー全員が食品衛生責任者の資格を持っている。

→ありがとうございました。まだ、提案の宿題を提出されていない方については、これで提出を締め切ったわけではないので、提出をお願いしたい。

◆実証実験に向けた意見交換 (●…メンバー発言、→…事務局発言)

→提案内容について説明していただいたが、実際にどのように取組んでいくか、という部分の検討を詰めなければならない。先ほどから提案していただいた中では、川田氏のブックマンション、ボランティアのたまり場、山崎氏の週末カフェ、清部氏の情報発信、の各取組がすぐに取組んでいけるのではないかと考えている。この後、活動スペースのレイアウトなどについても、皆さんで意見交換しながら、具体的に内容を詰めていただければと思っている。

それから、活動場所について、元々、提言には、建物に入った時に、行政、社会福祉協議会、商工会のそれぞれの窓口の職員の方の顔が見えて、気軽に相談できるように、と挙げられていることもあり、現在の城端庁舎 1 階にある市民センターの向かい側の空きスペースで実証実験の取組が出来ないかと、その場所の整理整頓を行ったが、市民センターから、様々なお客様が手続きに来られる中で、家庭の相談事なので周りの人に話を聞かれない、あるいは、亡くなった家族の手続きで来庁しているので静かにしてほしい、などというご意見も想定されるので、その点について配慮してほしいとの申し入れがあった。もし、どうしてもその場所で活動したいのであれば、きちんと仕切りを入れた上で活動していただきたい、とのことだった。その点については、今後どのように対応していくか考えていけば良いと思っているが、幸い、2 階も空いているので、一先ず、2 階エレベーターホール部分で活動していただくのが良いのではないかと考えている。1 階にも声が届くし、エレベーター利用で動線が短くて、お客様に来てもらいやすいのではないかと考えている。まずは、そこで、すぐに取組んでいけるような提案について実証実験を進めていただければ、と思う。今後、実験していく活動が増えれば、2 階の東側に向かって、活動スペースを広げたいと考えている。今はまだ片付いていないが、時期を見て、事務局側で整理整頓していきたい。

ということで、2 階エレベーターホール部分を活動場所として整備するための机や棚などの遊休備品のうち必要なものをイメージしていただいた上で、再度、具体的な内容の検討を行って、今回の会議を終えたいと思う。次回会議は 7 月 27 日なので、その時には軍手持参で参加願いたい。

●確認だが、空いた庁舎を活用した実証実験の位置づけについて、空き家になった庁舎でいくら活動をしたところで人は集まらないのではないかと？新しい施設で行うと、真新しいイメージで人は集まりやすいと思うのだが。

●検討している施設の機能の大部分は貸室機能であって、実証実験しようとしている取組はその一部にしか過ぎないのに、実証実験が終わらないと建物整備の話は出来ないのか？

→今後、地域で複合交流施設整備の説明会をして、地域の合意を取らなければならない。地域での説明の中で、ただ建物を新設と言っても、公共施設再編で既存施設を減らしていかなければならない中であって、新しい建物に余分なスペースを設けることは出来ない。この現状を踏まえた上で、提言にある「賑わいづくり」をどのように進めていくかということ、地域の皆さんにきちんと説明して、地域の皆さんに参加してもらえるような内容にしないと、提言を実現することは出来ないと考えている。

●城端勤労青少年ホーム機能や城端老人福祉センター美山荘機能の部分については、現在利用されているから、新しい建物が出来れば、自ずとそれらの利用者の皆さんが移動してくるのではないのか？

→検討している施設に盛り込もうとしている既存施設の、城端図書館、城端勤労青少年ホーム、城端老人福祉センター美山荘は現在賑わっているだろうか？

●この会議の元を正せば、庁舎統合により、庁舎機能を失った地域は賑わいが無くなって、活気も失ってしまう、との市議会からの提案・要望によるもの。私は、元々庁舎には賑わいなどはないと思っている。あくまでも、用事があるから行く所である。我々が検討しているのは複合交流施設新設である。庁舎とは別の意味で、図書館やカフェなどが入

って、いろんな人が集うことが賑わいにつながることをイメージしている。そこで、賑わい機能をメインに検討を進められることで、肝心の建物の話が先送りになってしまいうことは、ナンセンスである。例えば、喫茶店が入るかどうか、ロビーの規模はどのくらいか、商工会はどのような部屋を希望しているのか、など多少決めなければならないことはある。図書館機能の広さを最終的にはどの程度にするのか、城端老人福祉センター美山荘を利用している人は、それぞれどのくらいの広さであれば安心してもらえるのか、城端勤労青少年ホームのサークルはどんな設備があれば活動しやすいか、などという点は今後確認しなければならないだろう。建物全体として、庁舎機能があった時よりも少し賑わっている程度で良いと思う。これまでも、賑わい機能についていろいろと意見が出されていたが、そこまで議論しているといつまで経っても前に進まない。賑わいに直結するような機能はいろいろと入ってほしいとは思いますが、言い出すとキリがない。実証実験として提案されている取組なら盛り込むことは出来そうだが。

●もしかすると、今、やろうとしている実証実験というのは、この既存施設でも、提案された取組が十分に出来るということを実証実験する、ということか？

→そうではなくて、3月19日の富山市への視察に参加された方は十分理解されていると思うが、立派な施設であっても、ほとんど利用されていないような実態を見て来た。新たに施設さえ作れば良い、というものではないということ。

●それは、施設は不要、ということか？

→その施設でどんな取組が出来るのか、実証実験でまずは試してみて、運営の過程で出来ること出来ないことの確認や、やろうと思っていたが止めた方が良いという判断などを積み上げた上で、この方法なら地域の皆さんに参加してもらえらるだろうという確認を、この実証実験でしていただきたい。

●そのための実証実験なら止めた方が良い。

●実際に、建物が整備されてから、提案した取組を始めようと思っても、スムーズに始めることは難しいし、リスクが高いから、私は、実証実験はやるべきだと思う。

●そうではなくて、どんな建物を建てるのかを決めた上で、建物の本設計に入って、庁舎建物解体までの間には少なくとも半年から1年ほどの時間があるわけだから、その間に、実証実験を行えば良いのである。実証実験をしてから、どんな建物を建てるのかを決める、という手順では、話が本末転倒になるから、こういう建物を作るんだと決めてから、空いた時間を利用して、新しい施設のオープンを周知するためのイベントのようなイメージで実施するのであれば差し支えない、と言っているのだ。実証実験をしてからでないと建物の検討は出来ない、などと言われると、その実験で、仮に人が来なかった場合には複合交流施設整備の話はなしにする、という論理にするとしか思えない。

→検討している複合交流施設で、具体的にどうやって賑わいをつくるのかははっきりしていない状態で、住民の皆さんとの意見交換会で、果たして合意をいただくことが出来るのだろうか？

●合意とは何か？誰から合意をもらうのか？

→地域住民の方から合意をいただく。

●早く青写真を描いて、我々に提示して、その上で、各部屋の面積やどんな機能を盛り込むべきかを検討し、それに住民の意見を加えて加除修正すれば良いのである。実証実験は、検討の空いた時間に、空いたスペースを有効活用して行えば良いのである。

●城端には、残念ながら、地域を盛り上げようというプレイヤーがいない。井波には、数名の若者が地域を盛り上げようと頑張っている。城端でも、もっともっとプレイヤーを増やさなければならない。この実証実験をとおして、プレイヤーとなる人材を増やしたいと思っている。

●それはいつまでかかるのか？庁舎建物で賑わいをつくらなくても、商店会にもっと頑張ってもらって賑わいをつくってもらわなければならないのでは。

●商店会は頑張っている。商店会とは別で、まちや地域のことはそこに住んでいる人が考えるべきだと思う。

●商工会は入るし、願わくは、観光協会にも入ってもらいたいし、美山荘の機能が入るからそこに来ていた高齢者は呼び込めるし、正に複合施設だから、相乗効果が相まって、今まではバラバラにあった施設機能が1か所に集約するわけだから、今までとは違う賑わいが生まれると思っている。

●賑わいというのはランダムに人が来るというイメージだが、確実に流行っている店には固定客がいる。定期的に利用される固定客を作っておけば、その固定客に他のお客が付いてきて賑わいになるから、固定客を持っている店は強い。施設が整備されたら、どんな年代になるかは分からないが、例えば、週1回は訪れたいような固定客を作る仕掛けなど、訪れたいような機能が必要だと思う。その固定客というのは、地域に繋がっている人たちであって、この施設自体も地域に繋がる必要がある。

- 新しい複合交流施設の整備に向けて、あったら良い機能、やってみたい取組など、たくさんアイデアが出されたと思うが、実際に地域住民が求めているものはどんなものなのか、ニーズ調査のようなことをして厳選していくべきではないだろうか？
- 実際のところ、まちづくり検討会議からの提言内容や提言実現に向けた進め方については、資料の班回覧はなされているが、その後の話合いとして、私の地元の地域づくり協議会ではそのような話合いは一切なされていない。この会議の存在も認知されていない有様である。各地域づくり協議会に投げかけて、城端地域に必要な機能などについて話し合ってもらえる機会を設けたら良いのではないだろうか。
- 先日、建築士の藤井さんに1回目の図面を描いてもらって、いろいろと意見を述べた。それを踏まえて、もう一度、藤井さんなりのアイデアで描いてもらって、それをもって、各地域づくり協議会で検討状況を説明すれば、意見が出ると思う。その上で、城端地域全体の意見交換会を行うことも一考だろう。実証実験を行うよりも、地域の合意を図っていくための下地づくりの時期に来ている。実証実験というのは、施設がオープンした折に、取組が順調に運営出来るようにするために、例えば3回程度やってみれば良い程度のもの。実証実験で、ある程度の人が入りが見込めなければ、施設整備の話はない、というのはもってのほか。そんなことに時間ばかり割かれても困る。
- 例えば、図書館機能や美山荘機能など、機能別に分割して考えていき、またその考えを合わせて、住民説明会で説明するのはどうだろうか？城端図書館や城端老人福祉センター美山荘の利用者の声も盛り込んでいけたら良いのだが。
- 既に、利用者ニーズ調査は実施済みである。
- 実際に利用している方に向けた調査を行ったのであって、住民意識調査のようなものではないが。
- 仮に、調査用紙を1世帯に1枚配布したところで、その世帯の誰か1人が書くことになるので、各世代の意見を網羅することは難しい。地域づくり協議会で行っているような中学生以上を対象とした住民意識調査を行えば可能だが、分析するまでに半年から1年ほどの時間がかかってしまい、ますます住民説明会の実施が遅れてしまう。
- 対象世代の範囲を絞ってもよいのではないか。
- 口で言うのは簡単だが、調査をやるのは煩雑である。
- この会議は、何の決定権もない任意の会議なので、各地域づくり協議会に話を下ろして、それぞれで話し合ってもらい、そこでの意見を吸い上げて、城端地域全体の意見として取りまとめるのが良いのではないか。そろそろ、そのようにしていかなければならないのではないか？
- 3月の時点では、4、5月で、この組織としての意見を取りまとめて、藤井建築士には青写真を描いてもらった上で、6月に各地区を回って説明しようとスケジュールを組んでいたが、昨今の社会情勢により、会議が中断し、それっきりになってしまっている。
- 提言してから2年間、ダラダラとただいたずらに時間が過ぎてしまい、地域住民に十分な説明が出来ないまま、7月1日の庁舎統合の日を迎えてしまった。市民センターだけとなった城端庁舎の今後について、城端地域出身の4名の市議会議員に聞いても明確な答えが聞かれない。市は、庁舎が統合する7月までに答えを出す、と言っていたのだから、市議会がもっと発破をかけるべきではなかったのか。先の6月議会でも、この件については触れられなかった。どんなつもりで、秋の選挙に出るのだろうか？
- 元々は、庁舎統合があつての賑わいの話であつたはずなのに、賑わいの話が横に置かれてしまっているように感じる。
- 当の提案・要望した市議会は、全く無関心。そして、井波や福野は「賑わい」に振り回されてしまっている。私は、城端には、賑わいがそんなになくても良いと思っている。前回の会議では、藤井建築士は図面を手直しして、再度提案するようなことを話しておられたが、どうなったのか？図面が、その後どのように修正されたのか、楽しみにしているのだが。
- 実証実験とは、方向が決まってから、より具現化に向けて行うものであって、何も決まっていなくても実証実験を行うことは決してない。現時点で実証実験しても、何の意味もない。こういう施設を整備するから、動線はどんな具合になって、などと試験的にやってみることが実証実験である。実証実験の話は、後でも良い。実証実験で、議論を先延ばしにするのは賛成できない。青写真を早く描いてもらって、住民に提示出来るようにすべき。例えば、面積の広い狭い、賑わい創出の機能の知恵をもっと出せ、などの意見はあるかもしれないが、どんどん言ってもらえば良い。各地区での説明と並行して、地域全体の住民説明会を開催し、それらの意見を踏まえて、再度我々が集まって加除修正し、いよいよ図面修正、といった手順で進めていくべきではないのか。早く藤井建築士に第2案を提示してもらって、それを持ち帰って、この組織のメンバーみんながいろんな所で意見を聞いてくる、そのような手順を踏めば良いと思うがどうか？実証実験

は、実証ではなく、単なるお試しである。

- 私は、そのような位置付けでは考えていない。新しい施設を整備するにしても、そこに集う人たちのネットワークを今のうちから築いていかなければならないと考えている。今までの繋がりではなく、新しく作っていく繋がり。例えば、この施設を、ボランティアの人たちが集う場所とするために今から布石を打っていくようなイメージ。その施設で活動している人がその施設の魅力であるから、実証実験をとおして、施設の魅力となる人づくりをしていきたい。また、仮称ブックマンションの場所では、本が好きで、それを情報として活用したり、その情報を繋げたりする人が集まってくれると思っている。それは新しい建物になっても、当然必要な機能である。しかし、いきなりやれ、と言われても、すぐに培われるものではなく、実証実験という名称が相応しいかどうかは分からないが、新築にしろ、改修にしろ、このようなことを想定しながら進めたいと思っている。
- 実証実験をすることが、賑わうかどうかの確認にはならない、と言っている。
- 私は、そこは狙っていない。
- 新しい建物が整備されることで、既存のサークルや教室とは別の、新しいものが出来てほしいと思っている。従来の公民館活動では出来なかった、新しい内容のサークルなども出来てほしい。そして、そんなサークルなどの立ち上げをサポートするような人材を育成したいとも考えている。非常に大事な事と思う。城端勤労青少年ホームは現在も頑張っているが、新しい施設に盛り込まれることに併せて体制を強化し、新しいサークルなどもどんどん立ち上がるような、そんな拠点であってほしいと思う。
- 仮に、意見交換会を城端庁舎3階で行った場合、各家の家長しか参加されない。それで物事を決めていくということも非常に心配である。
- おっしゃることはごもっともだが、代わりの方法はあるのか？
- 広く各世代から声を聞かなければならない。
- 例えば、地域づくり協議会は、以前の自治振興会とは体制が一変し、女性や若者もたくさん加わっていて、これまで会議に出てこなかったような顔ぶれも見受けられるようになってきている。年配の方だけの意見だけで物事が決まるような心配は無用だと思う。それよりも、意見交換会では大勢の参加が見込めるだろうか？
- 藤井建築士からの図面は、次回会議で提示してもらえるのか？
→藤井建築士に確認してみる。但し、藤井建築士にはあくまでもボランティアで描いていただいていることはご理解いただきたい。
- 各所で、城端庁舎はどうなるのか？という声をよく耳にするし、また、その声が大きくなってきている。
- 青写真が提示されれば、早急に各地域づくり協議会へ説明に回っていく、という流れで良いか？
- 城端地域に活気と賑わいをつくっていくためにも、こちらからの情報発信は必要。
- 地域づくり協議会で説明した時には質問もあるだろうから、誰か答えなければならないが、この会議では会長職が決まっていないし、事務局で答えてもらうのもおかしいし、どうしたら良いだろうか。
→説明会での質疑応答の対応は、現在検討されている皆さんでお願いしたい。
- この会議メンバーが責任を持って答えることに賛成。
- 根回しではないが、各地域づくり協議会の会長さん方にだけでも、事前に説明しておいてはどうか。地域審議会がなくなってしまったのだから、なおさら必要である。
- もう一度言うておくが、実証実験ありきではない、ということ。どんな取組をするかも決まっていないのに、実証実験なんてありえない。
- 次回会議で青写真が出来上がってくれば、その青写真に、これまで検討してきた機能や取組などを入れ込んだり、青写真を基に2度3度と検討を重ねられたりという進め方になる、ということか？
- そのとおり。まちづくり検討会議から数えて、2年も経過しているが、一体何をしていたものか。
→まちづくり検討会議からの提言をベースに、その実現に向けて、昨年から現在の組織で検討していただいている。提言に挙げられている、様々な賑わいの具現化に向けた議論をしていただいているところ。
- 賑わいにこだわらなくても良いと言っている。既存施設の利用者が一か所に集まることで賑わいとなるのだから、少なくとも、今までの庁舎とは違う、新しい賑わいが出ることは100%確定している。これ以上、何を検討しろと言うのか。特別なイベントがあるわけでもない。元々、人が押し寄せるような事もないのだから、これで十分である。
- 庁舎が統合され、城端庁舎建物は完全に閉庁になるのか？
→夜間や休日は、職員が来れば、利用出来ることになっている。

●新しい施設でどんなことをするか検討は、次回、図面を見ながら検討すれば良いではないか。
→図面については、藤井建築士に再度確認する。それと、地域づくり協議会への説明を行うことと、実証実験を並行しながらやっていくことについては、提言の実現に向けた進め方として、皆さんと話してきたことなので、確認しながら進めていきたい。

◆次回会議

日時…令和2年7月27日（月）

場所…城端庁舎2階 202会議室

内容…活動スペースの設営、空いた庁舎を活用した実証実験の実施に向けた打合せ

宿題…具体的な市民参加の取組検討（提案書、または、空いた庁舎を活用した、事業化のための実証実験提案書）について、未提出の方は、次回会議に提出。

城端地域 会議録

件名	城端地域提言実現検討組織による第16回会議		
日時	令和2年7月27日(月)19時～21時	場所	城端庁舎2階 202会議室
出席者	検討組織メンバー：10名、まちづくり推進係：2名		
内容	・藤井建築士からの資料について(資料1)、 ・城端まちづくり協議会からの取組提案(資料2)、 ・実証実験の活動スペースの設営		
概要	◆前回の振り返り (●…メンバー発言、→…事務局発言) →前は、賑わい機能の取組や実証実験の提案について、それぞれご提案いただいた方からその内容について説明していただいた。また、4月9日の会議で藤井建築士から提示された図面の修正版について、藤井建築士に確認し、資料1として配布させていただいた。ご意見を踏まえて若干修正したとのこと。 資料1には、平面図、配置図のほか、4月9日の会議でのご意見と最終ページには、バスの動線など、これまでの会議で挙げられたご意見のイメージを藤井建築士の図面に加えてみた。あくまで勝手なイメージであり、加越能バスや市営バスの担当者と協議されたものではない。 隣接するじょうはな座の搬入口付近に4tトラックが停車するイメージを加えると、施設の屋根の一部が支障になるようなので、そのような検討が必要な点はまだまだあると思われる。 また、図書館機能スペースについては、必要に応じて、東側か南側へ拡大することも可能かと。 いずれにしても、あくまでイメージ図ではあるが、各スペースのレイアウトなど、皆さんから出されたご意見を基にして作成されたものであるので、確認していただければと思う。 →また、もう一つの資料として、城端まちづくり協議会事務局からご提示いただいた資料(資料2)も配布させていただいた。後ほど、説明していただきたいと思っている。 本日は、その後、空いた庁舎を活用した実証実験の活動スペースの設営として、2階フロアにおいてある棚等を移動させ、必要備品の確認をして、終わりたいと思うがよろしいか。 ●(全員)異議なし。 ◆藤井建築士からの資料について(資料1) (●…メンバー発言、→…事務局発言) →建物の配置については、「南北に」とのご意見もあったが、じょうはな座への機材等の搬入動線の都合もあり、東西の向きのままになっている。また、「図書館は南側が良い」とのことで、若干南側にしてあるが、日当たりが良すぎて、本が日焼けするといったご意見もあるので、そのような点も今後検討が必要になるかと。 「じょうはな座との屋根続きに」とのご意見があったが、一体にはなっていない。しかし、この大きな屋根の下で、キッチンカーの招聘や軽トラ市の実施など、使いやすかったり、イベントが開催出来やすかったりするのではないかと考えている。 多目的室の外側はオープンドアになっており、屋外テラスと一体的に大胆な活用が出来る。また、ご意見のとおり、多目的室と事務室スペースの配置を入れ替えた。図書館スペースの周囲もガラス張りにして、外から見えるようにしてある。 ●玄関はどの位置になるのか？ →玄関は、多目的室が隣接するエントランスホールのじょうはな座側に面した部分になる。エントランスホールに向かって、右側が玄関で、左側がトイレになる。 「市民センター、商工会城端事務所、社会福祉協議会城端支所の各事務室は、並べて、一続きのカウンターに」とご意見があったが、個人情報保護の観点からも、一続きにすることは難しいと市民センター側から指摘があったところであり、待合スペースは共有にして、互いに向かい合わせの配置となっている。商工会などは、待合スペース側に扉の絵が描かれているが、そこにはカウンターを設置したら良いのではないかと。また、総合案内所スペースは、貸室機能などの施設を管理するスペースを兼ねてもよいのではないかと。食堂・シャアキッチン、エントランスホールのスペースでは、これまで提案のあった取組が実践される場所の中心になるだろうと考えている。 また、「施設利用状況調査を基に、本当に必要な貸室機能かどうかを検討すべき」とのご意見について、城端勤労青少年ホームの利用状況について担当課に調査してもらったところ、同じ日・同じ時間帯で利用している団体は最大で3つとのことだったので、この多目的室が3つに仕切れることから問題ないと思われる。また、「選挙の期日前投票や確定申告相談としての利用」については、確定申告相談は多目的室で対応出来るだ		

ろうし、選挙の期日前投票は、食堂・シェアキッチンや待合スペースで対応可能かと。現在も、市民センターの向かい側スペースで期日前投票を行っているので、同じような面積は確保出来るのではないだろうか。

- 社会福祉協議会については、職員がどんどん削減されている状況であり、城端地域担当職員は全員、本所に席があるとのこと。本所から地区担当がやって来るようなイメージである。社会福祉協議会の意見も確認しなければならないが、各種相談受付や役員会開催のためのスペースは必要だろう。オープンスペースで対応出来ない案件もあるだろう。一方、商工会では人員削減はないようなので、商工会と社会福祉協議会のスペースを入れ替えて、商工会の方に顔の見える対応をしてもらえば良いのではないだろうか。
- 社会福祉協議会では、毎月1回心配ごと相談の事業も行っているから、そのスペースも必要だろう。
- いずれにしても、社会福祉協議会スペースにはカウンターさえあれば良いようなイメージである。その代わり、社会福祉協議会も商工会も利用出来るような相談室があれば良いような気がする。平面図にある、社会福祉協議会スペースの通路側は壁ではなく引き戸か何か？
- 平面図で、商工会は外側に窓が設置されているが、社会福祉協議会は四方を壁で囲まれてしまうことになるため、窓が設置されているのではないだろうか。
- 倉庫1は、施設全体の共有スペースとして利用することになるのだろうか？社会福祉協議会では、サロン等で使用するゲーム等の物品を非常にたくさん所有していて、各地区のサロンでもよく借用しているので、その保管場所となれば良いのだが。
- 建物の配置を、例えば、もう少し東側へ移動すると、南側の駐車場への往来は出来なくなるだろうか？
- 南側の駐車場への動線を塞ぐような形になるのではないだろうか。配置図にある、点線は現庁舎の位置であるが、その範囲ぐらいであれば、移動は可能だろう。
- 商工会の事務スペースをもう少し広くした方が良いように思う。役員会が開催出来るスペースを確保してあげないと、移転のお願いに行ってもこの図面を提示した時に、必ず狭いと言われそう。
- 建物としてはつまらないものになるかもしれないが、トイレの位置を、図書館スペースの東側に合わせると、もう少しスペースが確保出来て良いかもしれない。
- トイレは、建物の内側からしか利用出来ないのだろうか？
- トイレについては、24時間利用出来るトイレとのご意見から、外側からも内側からも利用出来るようになっている。内側を施錠すれば、外側からしか利用出来ないような設えである。施設利用者やこの施設で働く人たちは、エントランスホールを通過してトイレを利用してもらう形になる。図書館利用者も、一旦、図書館を出て、エントランスホールを通過して、トイレに行くことになる。
- 改めてこの図面を見ると、非常にコンパクトにまとまっている。多目的室も可動間仕切りで3室に分割出来るし、仕切りを外して1フロアにすることも可能。収容人数はどの程度か？机を置いても100人は入れるだろうか？
- 4月9日に提示された資料と多目的室の面積は同じであり、その時はその程度の収容人数と言っていたのではなかっただろうか。
- 収納スペースは倉庫1だけで足りるのか？
- 当然足りないだろうと思われるが、そんな細かい点までは、この図面には盛り込まれていない。あくまで、配置のイメージである。
- 共有して利用する小さな相談室を3室ほど作れば、各事務スペースの相談に対応出来るのではないか。衝立を立てて3つに仕切れると、なお良いだろう。
- 先ほども話にあったが、相談事は聞かれると困るから、声が漏れないように壁で仕切らなければならない。
- 天井の高さはどのくらいになるだろうか？
- そのようなことまでは考えていない。
- それぞれのスペースが必要であることは分かるが、図書館、商工会、社会福祉協議会のそれぞれがどのくらいの面積が欲しくて、どのような部屋が必要なのかを確認した上で、必要面積等を図面に入れ込んでいけばよいのではないか？
- 現在、社会福祉協議会が受けている、城端老人福祉センター美山荘の指定管理期間が来年3月末で満了となる。社会福祉協議会は更新しない方針であると聞いているが、新たな複合交流施設が整備されるまでに最低でも2年かかるだろうから、それまでの間は継続してもらわないといけない。受け皿がないまま、美山荘を閉館ということにならないように指定管理を2年間延長してもらおうよう、担当課に調整してもらっているところ。それと、福祉を考える担当課として、どの程度のスペースが必要なのか、美山荘の利用者の動向などを取りまとめて提案してもらおうよう依頼している。入ってほしい事務

所には、そろそろ必要面積等の希望を確認しなければならない段階にあるだろう。

- 現庁舎を取り壊して、新しい施設を建てる、ということが決まれば、そのような確認もしやすいが、具体的な話も決まっていらないのに確認出来ないだろう。その辺が難しいところである。
- どちらにしろ、各地区にある地区社会福祉協議会機能の拠点は必要なのではないかと困る。
- 美山荘は、相談事業や健康マージャン、サロン、老人会の役員会等、多岐に渡って利用されているが、健康マージャンや老人会の役員会等は貸室利用で対応出来るので総合案内所で対応出来るだろう。担当課としては、高齢者福祉機能を担うのにどんな設備が必要なのか。現在は人員を配備してもらっているので問題はないが、我々の思い当たらないような機能の追加があるようにも思う。
- 私の地元の地域づくり協議会では、福祉部会で高齢者福祉事業を行っており、直接、地域包括ケア課とも連絡を取り合っているから、城端地域の高齢者福祉の拠点のような機能は不要なのではないか？
- 私の地元では通所サービスB型事業は行っておらず、集落・町内会単位のサロンやケアネット等の細かい事業に取り組む際には、その申請や報告などに社会福祉協議会城端支所を利用している。
- 社会福祉協議会の支所で取り扱っていた業務が、少しずつ井口地域にある本所へ移行している。
- でも、やはり、城端にも対応窓口があった方が足を運びやすい。
- 1人の支所長が他の支所を兼務していることを始めとして、社会福祉協議会の統合は、我々の想像を超える速さで進んでいるようである。

→いずれにしても、社会福祉協議会や商工会の入居については提言に盛り込んであるものの、先方の事情を確認した上で決めていかなければならない。図書館についても、将来の方針を踏まえた上でしっかりと決めていかなければならない。何度も繰返し言うが、社会福祉協議会や商工会、図書館、市民センターの入居は決まっているものではないし、新築による整備も決定ではない。平面図の間取りについてもこれで決定するものではない。また、図面では食堂・シェアキッチンなどの床面積を確保してあるが、そこで誰が何をするのが決まらなないと、施設整備は出来ない。この施設を中心にどんな取組をすれば城端地域の活気や賑わいに繋がるのか、引続きご意見をお願いしたい。まだ宿題を出されていない方については、この機会に提出をお願いしたい。自分だけでは思い付かない場合は、身の回りの方等とも相談しながら、城端地域の賑わいについて考えていただきたいと思う。

◆城端まちづくり協議会からの取組提案について（資料2）

（○…城端まちづくり協議会発言、●…メンバー発言、→…事務局発言）

→具体的な市民主体の取組の提案について、城端まちづくり協議会から資料の提供があったので、説明をお願いしたい。

○城端庁舎を取り壊して新築にするのか、あるいは、既存庁舎建物を改修して活用するのか、我々は、まずはこの点から議論を進めて、既存庁舎建物を改修して活用する方向で意見をまとめて、活用策を考えてみた。

資料1枚目は機能別の部屋割で、どんな機能をどのフロアに設置するのかを示している。機能を重視して部屋割を考える必要があるのではないかと考えている。3階の元議場では、城端地域全体の会議を行うようなイメージである。2階の東側には図書館機能を入れて、西側には「健康福祉館」として、社会福祉協議会や城端まちづくり協議会などの交流スペースや城端勤労青少年ホーム機能をイメージ。1階の西側には、市民センター、及びその向かい側には、足元に不安のある高齢者向けに、社会福祉協議会の困りごと相談や高齢者の日常・生涯学習支援のスペースとしての活用をイメージ。また、災害対策機能も併設したい。1階の東側には、賑わい機能の中心である「みんなの交流館」として、ボランティア食堂や子ども食堂、認知症サロン、喫茶軽食、観光案内など、福祉を中心として観光機能も併用した、多機能併用複合型でイメージしている。

2枚目、3枚目は、入居する団体等の活動内容を示しており、必要面積数の算出根拠となるものであるが、活動内容を把握しないと、どのくらいの面積が必要なのかは分からない。「ボランティア連協」について、加盟団体の1つである赤十字奉仕団に聴取したところ、加盟人数が多い上に、所有物品も多いとのことであったが、入居については前向きな返事であった。「図書館」については、従来の機能に、子育て支援機能があると思うが、その分面積が必要になるということも分かった。「社会福祉協議会」については、美山荘へ行って聴取してきたが、主な活動は、困りごと相談と高齢者の日常と生涯学習支援とのことで、趣味の活動や相談スペースが欲しいとのことだった。

た。「大ホール」については、城端地区全体の合同サロンを開催するために必要ではあるものの、頻繁な利用ニーズが見当たらず、本当に必要かどうか意見が分かれていた。出来れば、多目的で効率的に運営したいと思っている。

3枚目にある「みんなの交流館」については、4枚目の平面図も参照されたい。内容としては、ボランティア食堂、子ども食堂、認知症サロン、福祉ボランティアの活動の場、それから、祭りの時の旅行者の休憩の場、喫茶、観光案内、菓子・料理講習会、食品加工、地場産品等の販売、などを盛り込んでいる。どんな取組が実践出来るのか、今後の検討で加除していき、必要な面積を決めていけば良いと思う。

4枚目の「みんなの交流館」平面図は、検討途中であり、まだまだ修正検討の必要性を感じているところであるが、食品衛生責任者の資格が取れる程の設備にするべきと考えている。講習会・食事・食品加工部のスペースでは、正に多目的な利用を考えている。通路部分では、地場産品やこの施設で作られた品物などを販売したい。喫茶スペースについては、プロの力も必要だろうと考えている。サロン・パソコン情報部スペースでは、多目的な利用を想定してしている。「みんなの交流館」の運営は有償ボランティアを想定している。そのような人材育成も必要になってくるだろう。

この建物の管理は、城端まちづくり協議会が担えばよいと思っている。

今回のこの提案は、まちづくり検討会議からの提言に一番近い形だろうと思っており、大雑把ではあるが、すっきりとまとまっているように思う。提言にあったたくさんの取組内容を、今検討されている平屋建ての建物に詰め込むのは無理があるだろう。そもそも、そこが大きな疑問点だった。また、この大きな建物を運営していくためには費用がどのくらいかかるのか、意見をいろいろと聞いてみたが、これを絶対に維持出来ないということはない、ということを考えての提案である。根本的に違うのは、新築で平屋建てか現庁舎建物を活用しての3階建てかということ。お金の使い道が全く違ってくる。建物内部の機能を徹底的に決めているので、建物に余りお金をかけずに、機能の部分にお金をかけて、「使える施設」を目指している。徹底して使える機能を盛り込みたいと考えている。だからと言って、どうしてもこの提案でなければならないとは考えておらず、じっくり検討して、互いに納得出来るような内容になればよいと思っている。遅ればせながら、今回提案させていただいたが、是非とも検討していただきたい。

→まちづくり検討会議での検討の頃から、現庁舎を活用してはどうかということで検討が進められてきた経緯があるが、いろいろとご意見があった中で、平屋一部2階建てのコンパクトな造りの施設整備ということで提言をまとめられて、現在、その実現に向けて検討されているところである。建物の造りの面でいろいろとご意見はあるかもしれないが、まずは、建物の中でどんな取組をするのか、その点についてご意見をお願いしたい。

●資料2枚目の上段に「まちづくり協議会」とあるのは、城端まちづくり協議会を指しているのか、それとも、城端地域全体の地域づくり協議会を指しているのか？

○城端まちづくり協議会ではなくて、城端地域全体の地域づくり協議会をイメージしているが、その中の「部会活動」は城端まちづくり協議会の部会のことである。

●既存の城端地域の全ての地域づくり協議会の組織がこの施設に移動してくる、ということではないとの理解でよいのか。

○私としては、城端地域の全ての地域づくり協議会の組織が移動してくるイメージだが、利用したい人が利用するということになるだろうか。但し、管理については、協議会同士で調整が必要だろう。

●利用したい人が利用する、ということであれば理解出来る。活動に参加する人や活動に協力する人がその施設を利用するのは差し支えないだろうが、先ほどおっしゃったように、組織を移動することについての理解が得られるかどうかは甚だ疑問である。

○その辺については説明不足だったが、城端まちづくり協議会が中心となって活動するものではあるが、城端地域全体からの参加や協力が無いと実現出来ない。

●「みんなの交流館」について、今の説明のままでは人が集まる感じがしない。想定しておられる各種団体が、それぞれの活動場所で活動して、それで完結してしまうので、「みんなの交流館」へ寄ってもらえるような仕組みが必要だろう。

○この建物の中全体を移動してもらえるように機能を配置したつもり。例えば、図書館へ来た親子連れが、帰りに交流館へ寄っていく。あるいは、城端まちづくり協議会の会議があるが、その前に飲食していくとか、会議そのものを交流館で行うなど、自由な使い方をしてもらうことを想定している。「みんなの交流館」が、ボランティアの溜り場になっても良いだろうし、活動の場になっても良いと思う。そのような機能を付けていかないと、「誰が利用するのか？」となってしまう。運営する人も、利用する人と一緒になってこの施設を盛り上げていくことが、賑わいづくりに向けて大事になるだろう。祭りになれば、観光客の休憩スペースとして、利益を上げることを考えても良いだろうし、

- くつろぐスペースとしての活用も良いだろう。実際に運営するとなると、専門職も素人も交えての協力は必要になるだろうから、その辺の調整は難しいかもしれないが頑張っていきたい。
- 庁舎建物を活用する方向での提案だったが、以前からの議論にもあったように、この建物の耐用年数が残り少なくなっているから、それなら新築した方が良いのでは、との意見で新築する方向で検討を進めている。この建物は耐震化対応されているが、今後、10年、20年と耐用年数があるようには見えない。きれいに改修したところで、残っている耐用年数が短ければ、庁舎建物を活用する意味がないように思うがどうか。
 - 庁舎建物の中をよく見ると、意外と壁の付け外しの自由が利くようなので、柔軟に配置出来そう。水道等の配管は新しく敷設しなおさなければならないだろうが、この建物と同じような規模の建物は、金銭面から今後は建設出来ないだろう。そう考えると、直して寿命を延ばす方法が良いのではないだろうか。
 - これからの城端を考えた時に、既存施設を残す方が良いのか、それとも、取り壊して新築した方が良いのか、本当に悩ましい。
 - 金銭面や耐用年数など、専門家に確認すべきだと思う。
 - この会議メンバーである藤井建築士に、以前、同じような確認をしたことがある。鉄筋コンクリート造の事務所建物については50年という法定耐用年数が定められているが、これは、あくまでも減価償却の算定をするためのものであって、経過したからそれで終わりというものではない。今後、もしこの建物を改修して利用していくということであれば、建物の強度等は当然確認する必要がある。耐震計算については、年数経過に併せて下がるというものではないが、柱等の主体構造の強度等は確認をしていかなければならない。しかし、富山県庁の建物のように、築80年を経過しても、修繕しながら利用していくことは可能だろう、というご意見だったように思う。先ほどの話にあった、水道や空調の配管については、いずれは10年又は20年のサイクルで敷設し直さなければならないだろうから、建物を新築してもそれほど大きくは変わらない。改修工事の内容はピンからキリまでいろいろ。城端まちづくり協議会から提案のあった様々な取組が実現出来れば本当に素晴らしいことであるが、広い床面積とそこに携わる人材の確保は大変だと思う。
 - 現在この会議で検討されている、庁舎建物を取り壊して新しい複合交流施設を新築するという案と並行して、庁舎建物を改修していくという案も出していかなければ、今後、各地域づくり協議会や住民との意見交換会で説明する時に、「庁舎建物を改修していく方向では検討しなかったのか？」と必ず質問されるだろうからこのような提案を出してみた。
 - 対案が出された形だが、今後、住民との意見交換会では、どのような説明の仕方になるのか？
 - 建物の中がどうこうというよりも、様々な活動が活発に行われるイメージを示した上で、必要な建物の中の機能の説明をすればよいのではないかと。
 - これだけの機能で、果たして、本当に利用したいと城端地域全域から人が集まって来るのだろうか？対象とする範囲の違いだろうとは思いますが、城端地区を対象とするのか、城端地域全体を対象とするのか。運営に際し、各地区から人員を派遣してもらうのか。
 - その辺りについては、まだ考えていなかった。
 - 「みんなの交流館」の取組が実現されれば、私も嬉しいが、実際の運営はどのようなイメージなのか。月1回の開店なのか。ここが充実することで、既存店舗に悪影響を及ぼしてはならない。やりたい気持ちは理解出来るが、実際に取組むことを考えると、既存店舗や施設との調整なども必要なのではないか。
 - 城端地域全体として、この提案のような機能は必要だとは思いますが、だからと言って、城端地域全体からの利用が見込めるとは思えない。城端地区の人は身近な立地なので利用するかもしれないが、それ以外の地区の人は、地元の交流センターで事足りるだろうから、この施設まで足を運ばないように思う。
 - 今回提案した機能を「みんなの交流館」だけに絞った場合、福祉型での利用と観光型での利用とではお金の使い方が全く違って来る。費用面での考え方ははっきりしていないが、仮に、福祉型で利用するとすれば、建物の経常経費の分担面で施設の自由な使い方は難しいだろう。協議会の中だと、赤字にならないような運営をしていく覚悟が必要、と言われている。今の提案内容では、赤字にならない運営は難しいので、もっともっとご意見をいただきたいと思っている。
 - この会議で検討してきている平屋建ての建物は、図書館機能を中心とした複合交流施設であり、城端図書館の老朽化のために新築したい、との意図も含まれている。この改修の提案だと、図書館機能はあるが、おまけのように見える。中心となる機能は1階に配置した方が良いのではないかと。

- 図書館の面積は、1階に配置している「みんなの交流館」と同じ。資料の書きぶりが甘かったが、図書館機能は非常に重要視している。
- 費用負担について、城端地域全体を網羅する施設の位置づけとの説明だったことからすると、各地区から費用負担を求めるのか？城端まちづくり協議会の活動拠点として、そちらの住民自治推進交付金を充てるというのであれば納得しやすいが。
- 過去に、じょうはな座で敬老会が開催された時に、北野地区から送迎バスが運行されていた。じょうはな座までの通り道である、城端地区の出丸町内からの参加者が、そのバスに乗せてほしいという声が聞かれたことを思い出した。北野地区では、自宅からバス乗車場所まで徒歩で来られていて、出丸町内～じょうはな座間よりももっと離れている。このような現実を見ると、城端地域の福祉の拠点としての活動を考えた時に、高齢者の足代わりとなるような交通面での取組も考えていかないと、参加したい人に参加してもらえず、足が遠のく一方になるのではないだろうか。特に福祉の面では、小規模多機能自治の中で対応していくのが一番なのではないだろうか。この会議でも、この点がネックで賑わい機能の検討が進まなかった。
- 今回の提案には、地域づくり協議会の機能や美山荘機能も盛り込んでいるので、現在の利用者の皆さんには引き続き利用していただけたらと思っている。
- 美山荘の利用者が、城端地域全体から来ているのかどうか、実態は分からない。
- 地域づくり協議会の機能や美山荘機能を失くして、床面積を減らすということか？
- そうではなくて、美山荘の事務所機能と備品貸出機能は検討している施設に移して、サロンなどは、城端地域全体で行うよりも、各地域づくり協議会で対応していく方が利用者の都合も良いのではないだろうか。建物をコンパクトにしようという意見の本意はここにあると思う。
- 各町内合同のサロンの開催に、庁舎3階大ホールの活用を提案したが、合同サロンだけで利用するのはもったいないので他の活用も盛り込んだもの。この合同サロンは城端地区の特長なので、その特長を活かしながら、城端地域全体の取組にもしていきたい。
- 私たちに課せられているのは、庁舎統合によって城端庁舎の機能がなくなるから、この機会に、コンパクトでちょっと便利な建物を整備してはどうか、との検討であって、このエリアに総合福祉ゾーンを作るためのものではないし、今から、城端地域全体を挙げて、力を入れて一大事業に取組もうというわけでもないのではないのか。
- 提言に書いてある機能を盛り込んで提案しているだけなのだが。
- それは理解出来るが、規模も含めて、どの範囲までの拠点と考えているのか知りたかった。
- 今回の提案については、城端地域の各地域づくり協議会が活動する、というような説明だったが、そこでの意見調整はなされているのか？
- 今回の提案は、城端まちづくり協議会が中心となってこの建物を運営し、そして、他の地区からも利用したい人がいればどんどん受け入れていく、というイメージなのではないかと思うが。
- そうではなくて、城端地域の各地域づくり協議会が互いに話し合いながら、この建物を運営していく、というイメージである。
- 3月に開催された会議での藤井建築士からの建築イメージの提案には、城端地域の各地域づくり協議会の各部会が活用する部屋の設置、というものもあった。
- 先日、城端地区の全区長さん方に、この会議の経緯と検討状況について、市から説明していただいたが、区長さん方は全くご存じでないような現状あった。これまでの会議の会議録などを拝見したが、当初の過程の中から、現庁舎を取り壊してコンパクトな建物に建替えるという方向性に至っている経緯がはっきりと分からない。恐らく、これまでの会議の前段部分で庁舎建物の有効利用も検討された上で、現在の方向性にされたのだと思っているが、それについて区長さん方に説明出来るだけのデータもないし、今皆さんがおっしゃったような話しか出来なかった。例えば、建物が作られてから、その役割を終えるまでの費用を算出した上で判断していくことになるだろうが、こういった結論になるにしても、住民の皆さんへ分かりやすく説明が出来るだけの根拠資料が必要。
- 説明するからには納得してもらわなければならない。
- 確認するが、これまでの会議の中で、既存の庁舎建物を取り壊して新築した方が良いという方向性に至るような、根拠資料の比較などはされなかったのか？
- 庁舎建物の今後の方向性については、現段階で市で方向性を出しているものではなく、現在の方向性に至るような、数字の比較なども行っていない。もし、建物を改修するとしても、その改修の内容によっては、新築するほどの費用がかかる場合もあるので、一概に数字を出せるものではない。一般的な標準単価を積み上げたところで、その数字に効果があるとも思えないので、費用比較は行っていない。
- 昨年4月の区長会で説明があつて、その時に提言書が資料として配布されているの

で、当時の区長は知っているはず。その月の市報配布に併せて、提言書は班回覧もされている。また、市の公共施設再編計画の中で、市の所有する公共施設の面積を半分にしなければならないとされていることから、これまでと同じような面積の施設を持つことは出来ない、ということになっている。もし仮に、庁舎建物を利用するとすると面積が相当広いので、公共施設面積を半分にすることは不可能なのではないか、という意見があって、コンパクトな建物に建替えるという方向性に至っている。

●建築費用については、市はいくらまでなら出してくれるのか？

→庁舎統合の話の中で、庁舎建物のある各地域で、まちづくりに向けて拠点となる施設を整備するという結論になれば、1地域5億2,500万円ぐらいは基金としての準備はある、と市議会でも説明しているが、その金額が上限でも下限でもないし、本当に必要な機能は何なのかという議論をしていただきたいので、これまでの議論で、特に金額については触れていない。そのお金をそのまま残しておいて、毎年イベント等で少しずつ使えばよいのでは、というような意見もあったが、そういう使い方は出来ないということ。

安居さんからは、前回の会議でもご意見をいただいていたが、ご提案の内容についてお菓子関係の組合での反応は？

○私は、提案してみて、協力が得られそうな意欲が見られたら、実行に移す、という考えである。組合への説明はまだだが、具体的な検討と同時進行で進めたいと思っている。

→例えば、資料1の平面図の中に「食堂・シェアキッチン」のスペースがあるが、お菓子の組合がそういう所を利用して、何か取組を行ってもらえるようなことは可能だろうか？

○もちろんである。

→プレイヤーになっていただける、という認識で良いか？

○今回の提案の中でオリジナルの機能は「みんなの交流館」である。それ以外の部分については、既存の施設を取り壊して、その機能を入れただけなので、賑わいを考えた時に、「みんなの交流館」で食をベースにいろいろなことに取組めたら楽しいだろうと思っている。

●これまでのこの会議の中でよく出されていた意見は、庁舎建物も大事だが、面積こそ小さくても、現在余り使用されていない施設が結構ある。そんな施設へ活動場所を振替える可能性についても検討を重ねており、例えば、24時間トイレなど、どうしても代わりとなる施設がない場合には検討している施設に機能として盛り込めば良い、という意見もあった。必要な機能なのか、不要な機能なのか、という検討や選択を重ねてきて、ようやくこの形になったと思っている。具体的な建物の使い方まで検討していないが、せっかく施設を整備しても、閑古鳥が鳴くようではダメなので、既存施設の活用も併せて、その点を十分に検討すべきと思っている。

→今回の城端まちづくり協議会からの提案については、引続き検討していただきたいと思う。メンバーの皆さんも、どんな取組が出来るのか、引続き考えていただきたい。

●城端地域のまちづくり検討会議からの提言の実現に向けては、城端地域全体のことはいい、庁舎建物に最も身近な城端地区の皆さんの思い入れの強い施設である分、城端地区の皆さんの同意や納得がないと前に進まないと思っている。先日、事務局から城端地区の区長さん方に対して説明があったとのことだが、その時の状況はどうだったのかを聞かせてほしい。それと、今回の城端まちづくり協議会からの提案は、安居会長の独断による提案なのか、城端地区の区長さん方の意見を基にした提案なのか、どちらなのかを聞かせてほしい。

○先日の、区長さん方への説明時には、この会議の現状についての認識は浅かった様子であった。それぞれの意見を伺った時に、コンパクトな建物を新築するという経緯の認識がなかったこともあり、庁舎建物を残して活用してほしいという意見が多かった。ただ、一部には、どちらでもよい、という意見もあった。また、このような案件については、区長だけでなく、もっと若い世代にも意見を聞いてほしいとの意見もあった。なお、今回の提案については、まだ事務局レベルのたたき台の段階である。区長さん方は、今回の提案の検討に一切参加されてはいない。この提案を区長さん方にどのように説明すればよいか、ということもまだ詰まっていない状況。

●市の公共施設再編計画に則って、城端地域内の老朽化した公共施設面積を減らして新築し、そこに賑わいとなるような取組を盛り込む、という夢物語のような提言から始まっている会議である。

○他に、区長さん方からは、城端地区には、地区を網羅するような避難所がないので、庁舎建物が避難所場所となって欲しい、という意見があった。

●元々、庁舎は避難場所ではなかったはず。

→庁舎機能でなくなれば、避難所としての機能を追加することは可能と思われる。

○城端地域の避難所の現状を考えると、耐震になっている避難所としては、庁舎建物が真

っ先に候補に挙がるだろう。

- 資料1の配置図について、建てる場所はもうこの位置で決定になるのか？

→そうではない。

- 配置図にある駐車場に向かったの矢印は路線バスの動線になるのか？

→以前の会議で、検討している建物から国道304号沿いにあるバス停までが離れていて遠いので、建物付近にバス停を移設して、敷地内にバスが入れるようにすると良いのでは、というご意見があったので、こちらでそのようにイメージして描いてみたもの。

- そもそもこの場所は、城端地域にとってどのような位置付けのエリアになるのか。駐車場や敷地の使い方や、国道との関係、城端小学校との関わりなど、このエリアでの人の流れが、現状ありきで検討されているので、非常に不自然さを感じる。例えば、じょうはな座や周辺駐車場などの活用も含めて、もっと上手くゾーニング出来れば良いと思う。

→今はあくまでも、これまでの会議でご意見のあった機能を盛り込んで、なるべく平屋建てで、ということでイメージした図面である。駐車場は出来るだけ広く取りたいし、建物をもう少し横長にしてはどうか、とのご意見もあったが、じょうはな座の搬入口に干渉するため、なかなかきれいには納まらなかったという経緯がある。もっと違った視点で見れば別の方法があるのかもしれないが、現時点ではそういったいろいろな条件を酌んでこの形になっている。是非、提案をお願いしたい。イメージでも良いので。

- 例えば、城端地域の交流拠点としてこのエリアを打ち出していくのであれば、このエリアの外側や内側からの見た目や、人の動線をどのように上手く流していくか、また、シンボル性など、集客に向けたコンセプトづくりが必要になると思う。私の提案は、どうやって人を動かすか、という点に着目し、植物を使って人の流れを作っていくという内容である。ただハコものをつくるだけでは寂しいような気がする。また、エリアの使い方にしても、そもそも庁舎や駐車場、じょうはな座の位置がどうしてこの位置になったのか、人や車の動線を余り意識してないように見えて疑問に感じていた。せっかくの素敵な城端地域であっても、人や車の動線を余り意識しないで決めていくのであれば、これまでのエリアの使い方と全く変わらない。あと、総合的な防災機能は重要だと感じた。検討している建物が平屋建てということになってしまっているのが叶わないだろうが、以前の会議で城端庁舎の屋上から城端のまちを眺めた写真を拝見して素敵だと感じた。城端地区には、まち一円を眺められるような施設はないので、絶対ここにしかない、という機能は必要な機能なのだが。一人でも楽しめるし、当然、人が集まっても楽しめる、というような機能があっても良いのではないかと感じた。

- 庁舎建物を残して活用した施設となっても、庁舎建物を取り壊してコンパクトな建物を新築した施設になっても、人が集まってくれるような施設にしなければならないと思って、実証実験に取組みたい。

- 先ほどのエリアの意見を聞いて、このエリアの昔の様子を思い出した。

- ちょっとした物がまちの中に点在しているが、それらが繋がっていない。それらの点を繋げて大きなエリアにしていくことが、まちづくりには絶対必要だと思う。

◆実証実験の活動スペースの設営

◆次回会議

日時…令和2年8月24日（月）

場所…城端庁舎2階 202会議室

内容…実証実験活動スペースの設営、具体的な市民参加の取組検討

宿題…具体的な市民参加の取組検討（提案書、または、空いた庁舎を活用した、事業化のための実証実験提案書）を提出

氏名 坂本 氏

具体的な市民参加の取組検討

ア. 関連する「提言の方向性」
①世代を超えて交流し助け合える、誰もが集える居場所づくり
イ. 取組のタイトル、または、テーマ
まちなかコミュニティガーデン ー緑が息づく複合交流施設ー
ウ. 取組の内容（実施場所、期間（曜日・時間帯）、人材、経費見込、など具体的に）
緑（草花や樹木）でつむぐ憩いの空間づくり ・市民に親しみのある植物や、地場産の野菜や地域に自生する植物（薬草、食材、山野草他）を組み合わせたコミュニティーガーデンと、これと一体化した施設内ホールや緑のカフェライブラリーや工房（ワークショップスペース）

エ. この取組の意図・目的や、この取組によって解決したい、現状の問題点・地域課題・期待する効果
城端町は四季折々に祭事や催しが繰り広げられ、そこには桜並木や、多く点在する神社仏閣の緑地空間だけでなく、曳山祭りの山宿で披露される見立ての植物等、まちの人々の生活にはハレとケにおいて緑を愛でる地域ならではの楽しみがある。（親しみと品格、屋外と屋内の演出やまちなみと私的空間の調和） また、まちには日頃から緑で私的空間をしつらえ楽しむ人が多く、また植物を通して訪れる人々をもてなす感覚が強く養われているように思われる。 このような現状から、複合交流施設は単なる一施設として整備するのではなく、まちに点在する守り・活かし・育てていきたい緑の資源と連続する施設機能やデザイン、運営に反映させることで、より人々に愛される地域ならではの空間づくりを目指す。 ●自然から学び・触れ合う人々との交流 ・四季折々に変化する植物の成長を通して、訪れる人々の五感をくすぐり、生命の魅力を発見、味わいながら感性を磨く。 ・市民参加型のガーデンで繰り広げられる楽しみ、感動、疑問、知識を通して、子供から高齢者まで自由に触れ合いながら日常生活の活力を養う。 ●市民と共に呼吸するライブラリー ・定期的に植物や生物（鳥・昆虫等）の自然や、それにまつわる生活・観光資源との関わりやその他のテーマを図書館や他のイベントを共有、展開することで、それぞれの有効活用、新たな魅力発見等、さまざまな角度からの相乗効果を図る。 （市民提案型ライブラリー／緑のまちと共に息づくライブラリー） ●緑のシンボリック空間づくりと、まちなかの魅力ある緑のネットワーク化 ・周辺の緑の活用やコミュニティガーデンとの一体化した複合交流施設の立地により、まちなかに点在する公的な緑地空間のネットワーク化を図ると共に、人々の緑を生かした景観作りに対する意識を高め、施設単体だけでなくまち全体を考慮したヒューマンスケールの空間形成（緑で人をつなぐ）を目指す。

具体的な市民参加の取組検討

＜まちなかの主な緑のネットワーク例＞

城端小学校・中学校をつなぐ桜並木 ⇄ [複合交流施設] ⇄ じょうはな座前駐車を縁取る植栽帯と桜のゲート

⇄ 蔵回廊 ⇄ 城端別院 ⇄ 西新田神明社 ⇄ 山田川沿岸 ⇄ 城端駅

⇄ 蔵回廊 ⇄ 城端別院 ⇄ 西下稲荷神社 ⇄ 304号 ⇄ 城端駅

＜周辺のシンボリック緑地空間＞

桜ガ池、縄が池、袴腰山

● 移ろいゆくギャラリー

・複合交流施設は自然現象（光、風、水、雪等）や植物の四季折々のいろやかたち等、刻々と変化する自然の様相を生かしたギャラリー空間にすることで、人々の好奇心をそそると共に、ナチュラルな感性を磨き楽しむ。

情報発信

HUB-YA

はぶのや

旧城端庁舎で
おもしろいこと
はじめます！

ベルマーク
古切手収集
ボランティア
基地

あんたも、まじらん？

「南之びば」

9/23
(水)

OPEN!

シェア本棚

場所：旧城端庁舎 2F エレベーターホール特設会場（笑）

時間：平日の 9:00~17:00（市民センター開庁時）

令和2年7月1日より、4つの地域に分散していた庁舎機能が福光庁舎に統合されました。たぶん市役所のお仕事は、はかばかしくおこなうと思いますが、城端地域のものとしてはどだいあいそなないです。

まあそやけど、これをきっかけに、「新しいつながり」、「新しい場」ができたらいいなということで、旧城端庁舎の2Fエレベーターホールをお借りして、実験してみます。

内容：とりあえずこんなことはじめます。

裏面もみてね！

HUB-YA（はぶのや）

情報発信の場所です。〈メンバー募集〉〈イベント情報〉などにご利用ください。
掲載は無料！ プリンターもあるので、データ持ち込みでプリントアウトも可能です。

シェア本棚

読み終えた本を提供していただき、感動や情報を共有します。この場所でお読みいただけます。本を提供してくださる方、絶賛募集中！（12スペース）

ボランティア基地

ベルマーク、古切手の収集ボランティアの活動をします。ご家庭で集めていただきこちらで整理します。たくさん集めて、みんなの想いを城端小学校に贈りましょう！

「あそびば」見取り図

シェア本棚

有志の方々から提供いただいた本をゆったりとお読みいただけます。専用用紙に連絡先などを記入すれば貸出できるように準備中です。それぞれの読書傾向も面白いですよ。

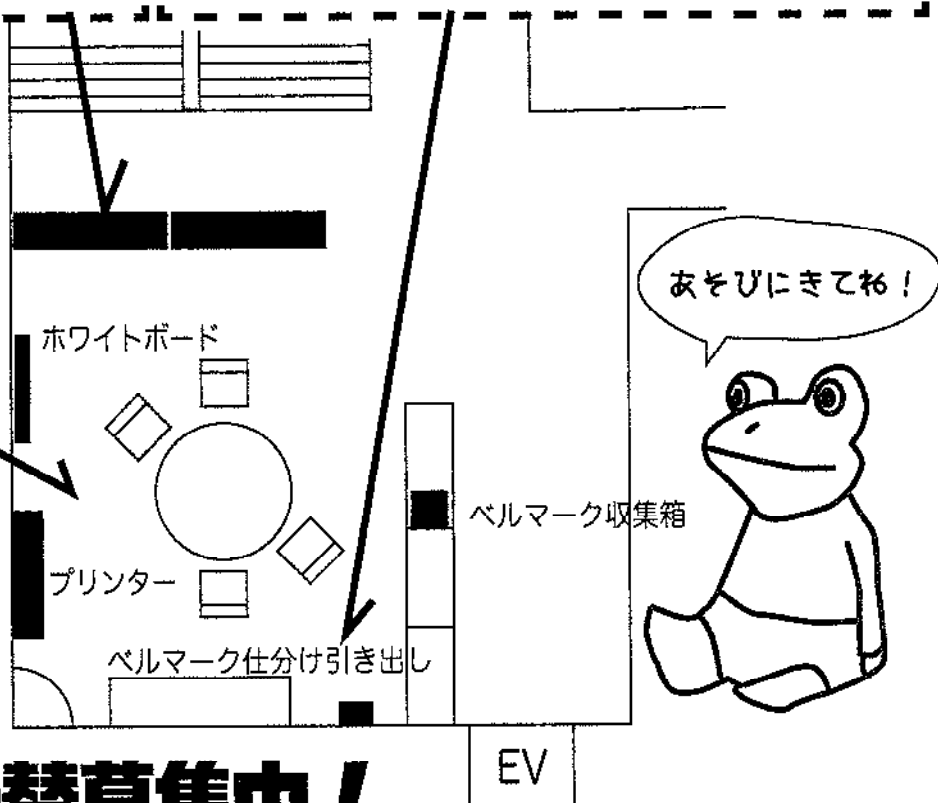
ボランティア基地

小学生がおられないご家庭では、普通に捨てちゃっているベルマークですが、どうせなら集めて、みんなのチカラを結集して城端小学校に贈りましょうよ！誰でもいつでも家で取り組めるし。良かったら整理作業も手伝ってね。

HUB-YA

はぶのや

毎日どこかで何かが行われています。必要な情報が必要な人に届くといいな。ここにきたら、おおかたなんでも知る事ができるという、そんな場所を目指しています。つること、おこえがけすること、なんでも情報発信、情報収集にきてください！
プリンターはデータ持ち込み（USB、SDカード、CD等）でプリントアウト可能です。（100円）



絶賛募集中！

活動名

内容

方法

情報発信

HUB-YA

はぶのや

掲示板に貼るチラシを（メンバー募集、イベント案内など）募集しています。プリンターはデータ持ち込み（USB、SDカード、CD等）でプリントアウト可能です。（100円）

セルフサービスとなっております。
「あそびば」に持って来てホワイトボードに貼ってください。テープはご自由におつかいください。

シェア本棚

読み終わった本を提供くださる方を募集中です。H400×W800のスペースです。（12名まで）ジャンルは問いません。提供していただいた本の取扱いをお任せいただくことをご了承ください。

セルフサービスとなっております。
提供いただける際は、事前にご一報いただけるとありがたいです。
担当者090-8267-9934川田迄

ボランティア基地

ご家庭でベルマーク、古切手を集めてください！

セルフサービスとなっております。
ベルマークはマークの周辺5mmくらいを目安に古切手は、消印も含めて1cmくらい大きめに切り取って、「あそびば」まで！

集まったベルマークの整理を手伝って下さい！

「あそびば」で、出入り自由にておこないます。

その他

「あそびば」に来られるママのためにベビーベッドをいただけないでしょうか。

「あそびば」に持って来ていただけるとありがたい。
難しいようでしたら、いただきにありがとうございます！

主催：城端地域提言実現検討組織 有志 お問合せ：◆総括 南砺市役所政策推進課 23-2052（山下・日西）

◆HUB-YA（はぶのや）090-6277-3118（清部） ◆シェア本棚・ボランティア基地 090-8267-9934（川田）